

感染症発生動向調査事業報告書

－令和7（2025）年版－

山梨県感染症情報センター

目 次

I 事業概要

1 感染症発生動向調査事業	1
2 対象感染症	2
3 定点医療機関	4

II 患者発生状況

1 全数把握対象感染症	5
2 定点把握対象感染症	5
2-1 急性呼吸器感染症定点から報告された感染症	7
○インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	8
○COVID-19	9
○急性呼吸器感染症	10
2-2 小児科定点から報告された感染症	11
○RSウイルス感染症	12
○咽頭結膜熱	13
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14
○感染性胃腸炎	15
○水痘	16
○手足口病	17
○伝染性紅斑	18
○突発性発しん	19
○ヘルパンギーナ	20
○流行性耳下腺炎	21
2-3 眼科定点から報告された感染症	22
○急性出血性結膜炎	23
○流行性角結膜炎	24
2-4 性感染症定点から報告された感染症	25
○性器クラミジア感染症	26
○性器ヘルペスウイルス感染症	27
○尖圭コンジローマ	28
○淋菌感染症	29
2-5 基幹定点から報告された感染症	30
○感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)	31

○ クラミジア肺炎	32
○ 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）	33
○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	34
○ マイコプラズマ肺炎	35
○ 無菌性髄膜炎	36
○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	37
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症	38

III 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況	39
2 細菌検出状況	40

IV 参考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧	41
2 全数把握対象感染症の報告数	43
3 全数把握対象感染症の月別報告数	44
4 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数	45
5 前年(2024 年) との定点当たり報告数の比較	46
6 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移	47
7 警報・注意報レベル発令週	48
8 感染症発生動向調査の調査報告週対応表	49

I 事業概要

1 感染症発生動向調査事業

感染症発生動向調査は、昭和 56 年から開始され、平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、「法」という）の施行に伴う施策として位置づけられた調査である。本調査は、感染症の発生情報の把握と分析を行い、その結果を住民や医療機関へ迅速に情報提供・公開することで、感染症の発生やまん延の防止を目的として実施されている。

県（「山梨県感染症情報センター」）では、本調査事業対象となる感染症について、週・月単位で流行状況を収集、解析すると共に、行政検査で検出した病原微生物検出状況も併せて県ホームページ（やまなし感染症ポータルサイト）をとおして、広く県民や医療機関等へ情報提供を行っている。

なお、平成 31 年 4 月には、甲府市の中核市移行に伴い、甲府市保健所が設置されている。市内の感染症発生状況については甲府市が感染症の動向の把握や情報提供を行っているが、本報告書には、県感染症情報センターとして甲府市分も併せて掲載する。

（本年の主な変更点）

4 月 7 日から急性呼吸器感染症が定点把握対象の五類感染症に位置づけられた。これに伴い、インフルエンザ／COVID-19 定点（41 か所）、インフルエンザ病原体定点（5 か所）を廃し、新たに急性呼吸器感染症定点（35 か所）、急性呼吸器感染症病原体定点（5 か所）が指定され、サーベイランスが開始された。

2 対象感染症

令和7年4月7日現在、全数把握対象91感染症、定点把握対象28感染症及び、法第14条1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症を調査対象としている。

全数把握対象感染症

	対 象 感 染 症
一類感染症	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、 (4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、(13)鳥インフルエンザ（H5N1）、(14)鳥インフルエンザ（H7N9）
三類感染症	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)A型肝炎、(23)エキノкокクス症、(24)エムボックス、(25)黄熱、(26)オウム病、(27)オムスク出血熱、(28)回帰熱、(29)キャサヌル森林病、(30)Q熱、(31)狂犬病、(32)コクシジオイデス症、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリ

	プトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群、(73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症	(114) 新型インフルエンザ、(115) 再興型インフルエンザ、(116) 新型コロナウイルス感染症、(117) 再興型新型コロナウイルス感染症
指定感染症	該当なし

定点把握対象感染症

	対 象 感 染 症
小児科定点	(88) R S ウイルス感染症、(89) 咽頭結膜熱、(91) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(92) 感染性胃腸炎、(98) 水痘、(102) 手足口病、(103) 伝染性紅斑、(104) 突発性発しん、(106) ヘルパンギーナ、(112) 流行性耳下腺炎、
急性呼吸器感染症定点	(90) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(93) 急性呼吸器感染症（インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）（以下、「COVID-19」とする）、百日咳、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎を除く。）、(97) COVID-19
眼科定点	(94) 急性出血性結膜炎、(111) 流行性角結膜炎
性感染症定点	(99) 性器クラミジア感染症、(100) 性器ヘルペスウイルス感染症、(101) 尖圭コンジローマ、(113) 淋菌感染症
基幹定点	(92) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）、(95) クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(96) 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(105) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(107) マイコ

	プラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症定点	(118)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

3 定点医療機関

定点把握対象の五類感染症を把握するため、県では、人口及び医療機関の分布を考慮し、患者定点若しくは病原体定点として医療機関を指定している（指定医療機関）。（医療機関名は、IV参考資料の1「感染症発生動向調査の指定届出機関一覧表」を参照）

患者定点	定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため指定する医療機関
小児科定点	小児科定点把握対象感染症の発生状況を把握するため指定する、小児科を標榜する医療機関
急性呼吸器感染症定点	急性呼吸器感染症定点把握対象感染症の発生状況を把握するため指定する、小児科を標榜する医療機関、内科を標榜する医療機関（内科定点）
眼科定点	眼科定点把握対象感染症の発生状況を把握するため指定する、眼科を標榜する医療機関
性感染症定点	性感染症定点把握対象感染症の発生状況を把握するため指定する、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関
基幹定点	基幹定点把握対象感染症の発生状況を把握するため指定する、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する医療機関
疑似症定点	疑似症の発生状況を把握するため指定する医療機関
病原体定点	病原体の分離等の検査情報を収集するため指定する医療機関

Ⅱ 患者発生状況

1 全数把握対象感染症

山梨県及び全国における全数把握対象感染症の報告数を「IV参考資料」の2に、月別報告数を「IV参考資料」の3に示した。

2 定点把握対象感染症

《五類感染症》

山梨県および全国における定点把握対象感染症の報告数と定点医療機関当たりの患者報告数※¹（以下、「定点当たり報告数」という）を「IV参考資料」の4に示した。また、前年（2024 年）との定点当たり報告数の比較を「IV参考資料」の5に、定点当たり報告数の5年間の推移を「IV参考資料」の6に示した。

《疑似症》

法第14条1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症である、「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の報告はなかった。

※1：定点医療機関当たりの患者報告数とは

定点医療機関から1週間に報告される患者数を、定点医療機関数で割った値である。

注意報レベル、警報レベルについて

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾患について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにある。

- 警 報レベル 大きな流行が発生または継続しつとあると疑われることを指す。
- 注意報レベル 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指す。

警報レベルは、保健所単位で集計した1週間の定点当たり報告数がある基準値(開始基準値)以上で開始し、別の基準値(終息基準値)未滿で終息となる。注意報レベルは、1週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合である。

警報・注意報基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、次のとおり定められている。なお、本年の警報・注意報の発令状況を「IV参考資料」の7に示した。

感 染 症	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	－
感染性胃腸炎	20	12	－
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	－
伝染性紅斑	2	1	－
ヘルパンギーナ	6	2	－
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	－
流行性角結膜炎	8	4	－

令和7年4月1日現在

基準値はすべて定点当たり報告数である。注意報の「－」は対象としないことを意味する。

2－1 急性呼吸器感染症定点から報告された感染症

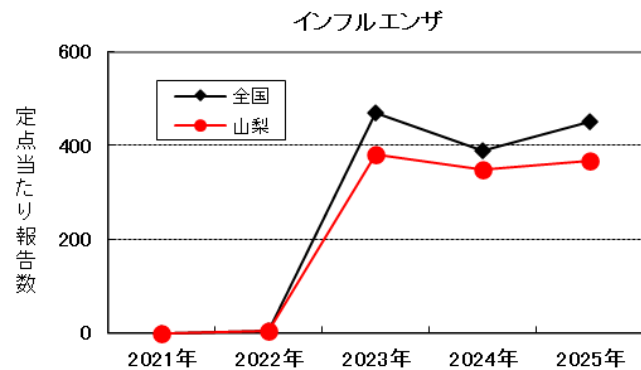
県内 35 か所の急性呼吸器感染症定点から、対象感染症であるインフルエンザ、急性呼吸器感染症、COV I D－1 9 について週報として報告される。

なお、インフルエンザ、COV I D－1 9 の患者報告数は、4 月 6 日（第 14 週）まではインフルエンザ／COV I D－1 9 定点（41 か所）から、4 月 7 日（第 15 週）以降は急性呼吸器感染症定点（35 か所）からの報告を集計している。

○インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

定点から 13,231 例（定点当たり報告数 367.53）の報告があり、前年（347.56）より増加した。

最近 5 年間は、全国とほぼ同様に推移している。

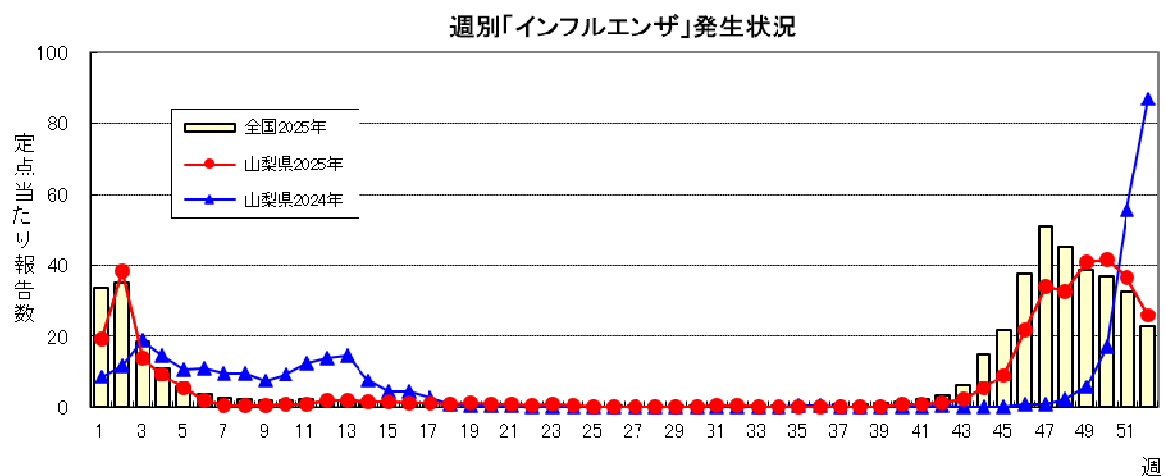


《週別発生状況》

前年に引き続き、第 1 週から全ての保健所管内で警報レベルであったが、第 3 週から減少し、第 7 週には流行期の目安である 1.0 を下回った。

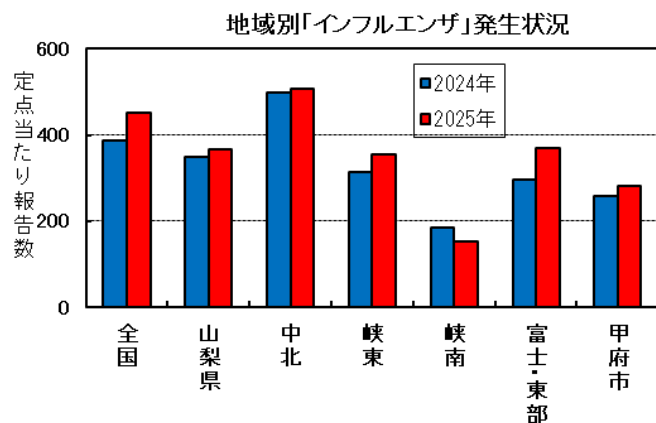
第 42 週には再び 1.0 を超えて増加し、第 49 週には峡南保健所管内を除く保健所管内で警報レベルとなった。

年間をととした発生状況は全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（507.00）であった。

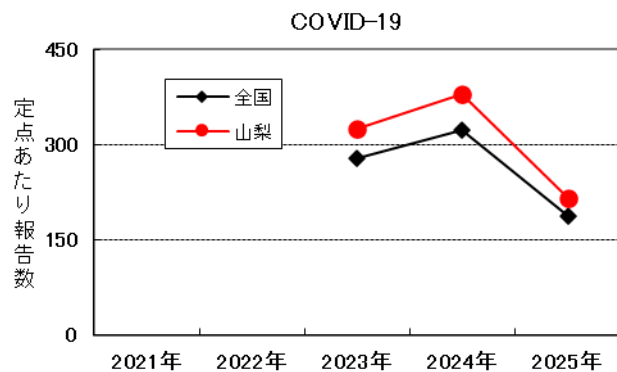


COVID-19

定点から7,787例(定点当たり報告数216.31)の報告があり、前年(380.98)より減少した。

定点当たり報告数は全国より多い状況で同様に推移している。

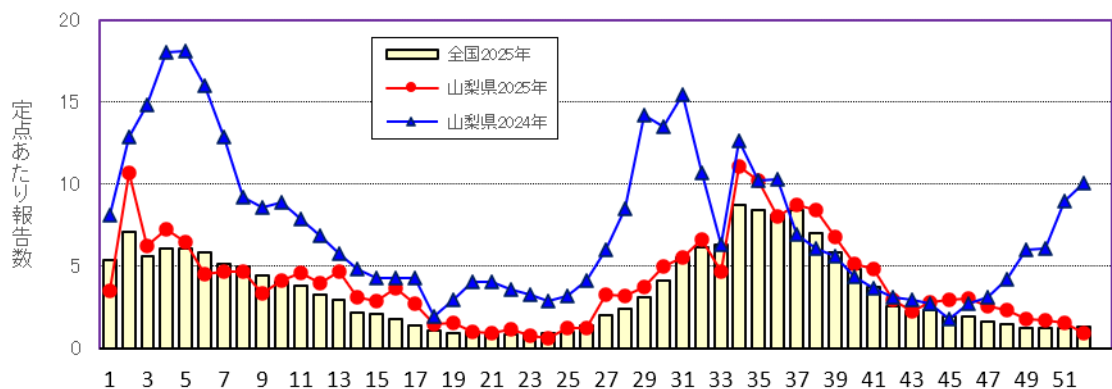
※2023年は5月8日以降の報告分のみ



《週別発生状況》

第2週(10.68)、第34週(11.06)をピークとする二峰性の流行がみられた。年間をとおした発生状況は全国とほぼ同様の推移であった。

週別「COVID-19」発生状況

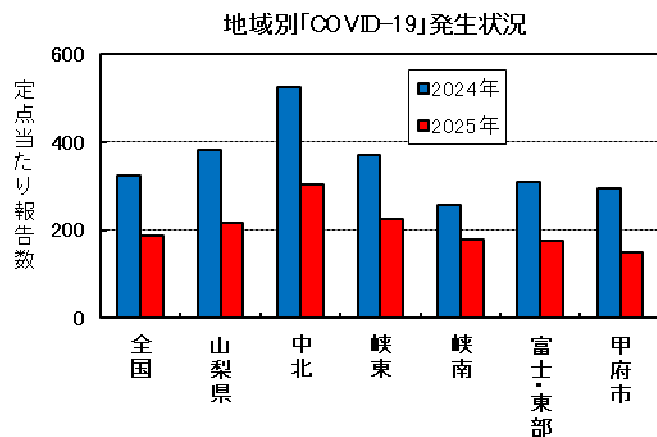


週

《地域別発生状況》

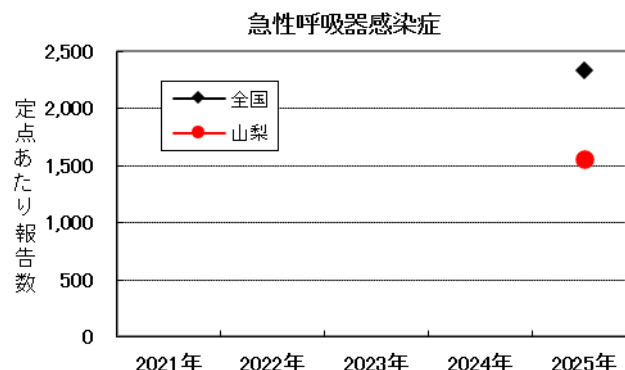
定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(303.25)であった。

全ての保健所管内で前年より減少した。



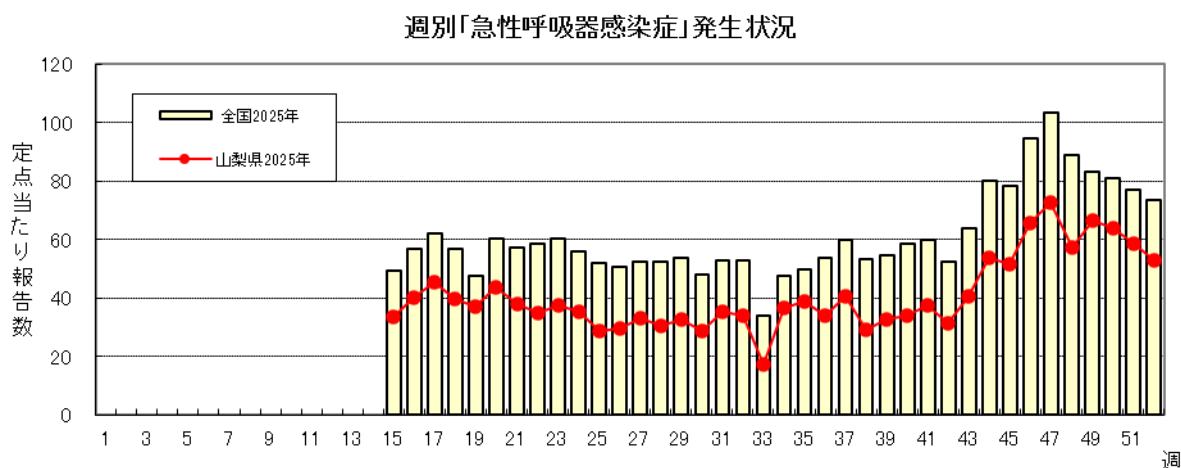
○急性呼吸器感染症

2025年4月7日（第15週）から定点報告が開始され、54,388例（定点当たり報告数1,553.94）の報告があった。



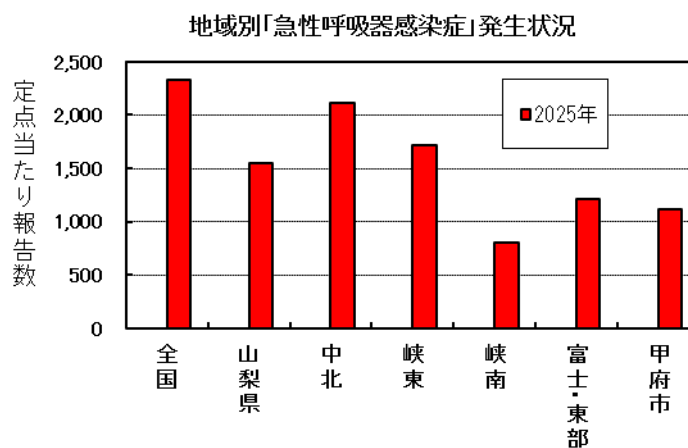
《週別発生状況》

報告が開始された第15週以降、毎週報告があったが、第47週（72.57）が最も多かった。年間をとおした発生状況は全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（2,118.17）であった。



2-2 小児科定点から報告された感染症

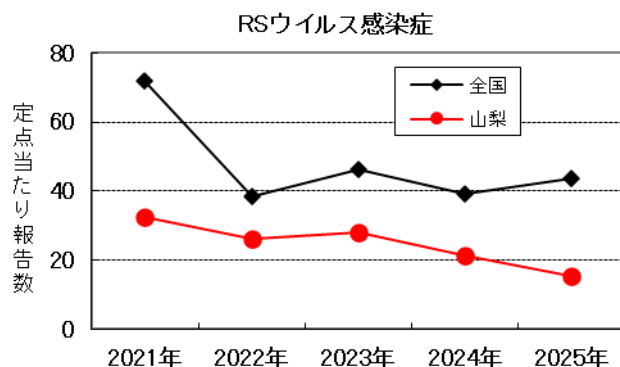
小児科定点から、対象感染症である RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎について週報として報告される。

なお、4 月 6 日（第 14 週）までは 24 か所、4 月 7 日（第 15 週）以降は 21 か所の小児科定点からの報告数を集計している。

○ RSウイルス感染症

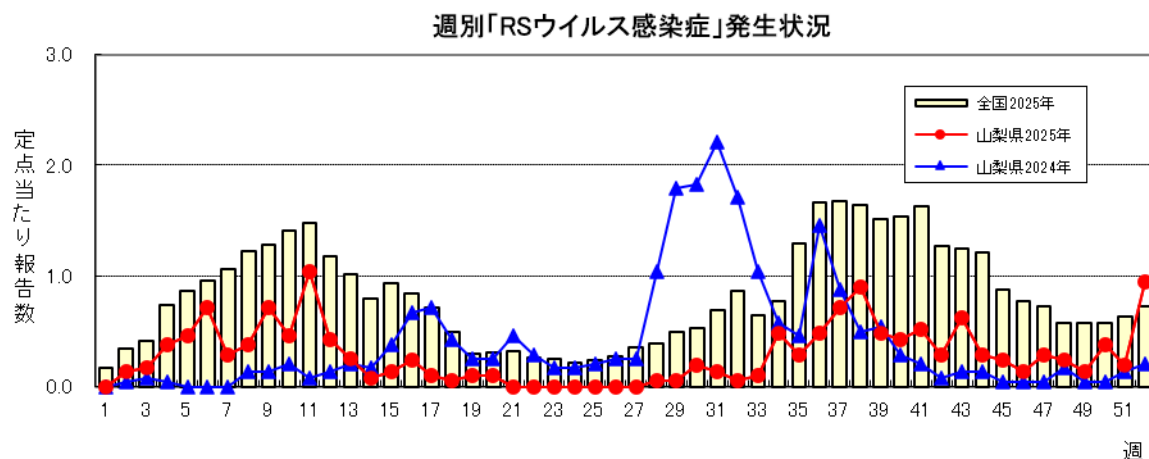
定点から 326 例（定点当たり報告数 15.52）の報告があり、前年（21.25）より減少した。

最近 5 年間は、やや減少傾向で推移している。



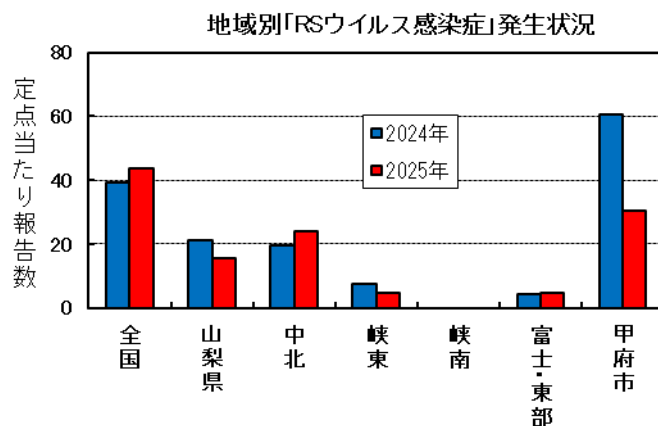
《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、第 11 週(1.04)、第 38 週(0.90)、第 52 週(0.95)の報告数が多かった。



《地域別発生状況》

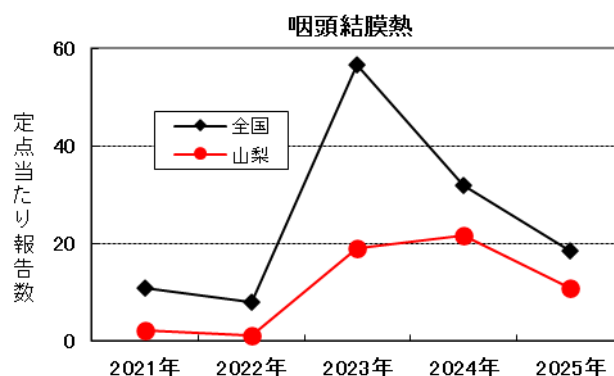
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（30.25）であった、



○ 咽頭結膜熱

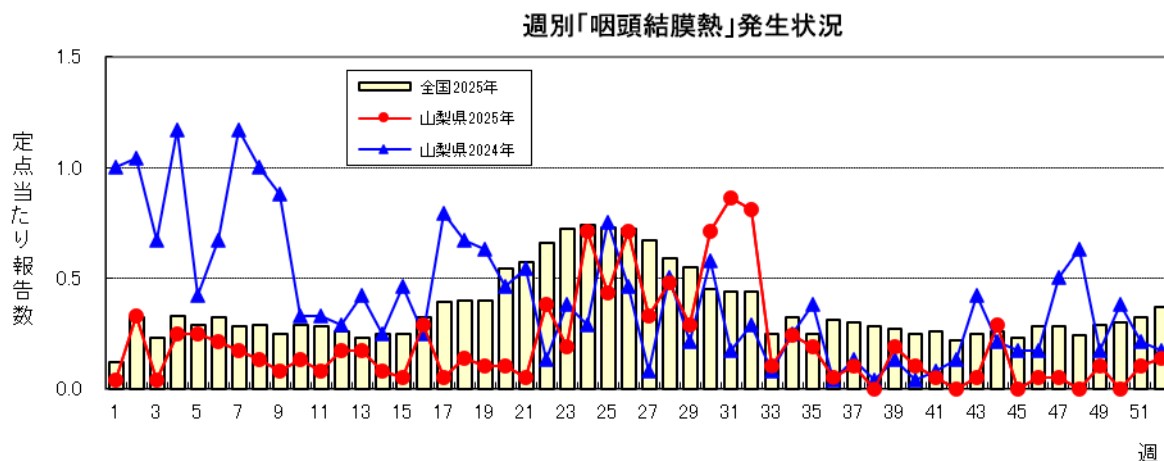
定点から 228 例（定点当たり報告数 10.86）の報告があり、前年（21.54）より減少した。

最近 5 年間は、定点当たり報告数が全国より少ない状況で推移している。



《週別発生状況》

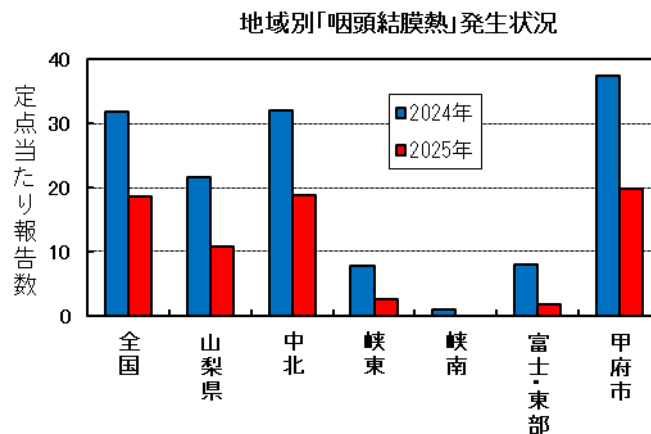
年間をとおして報告があったが、第 24 週から 32 週の夏期に報告数が多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（19.75）であった。

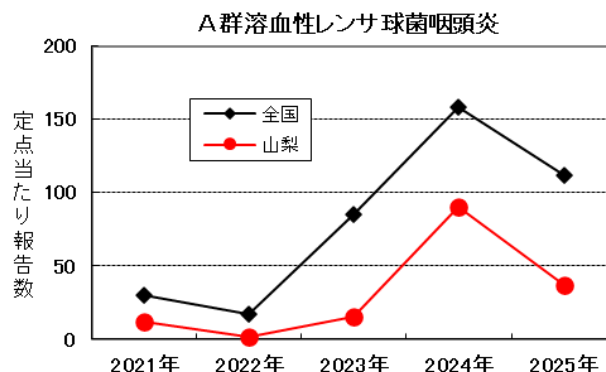
全ての保健所管内で前年より報告数が減少した。



○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

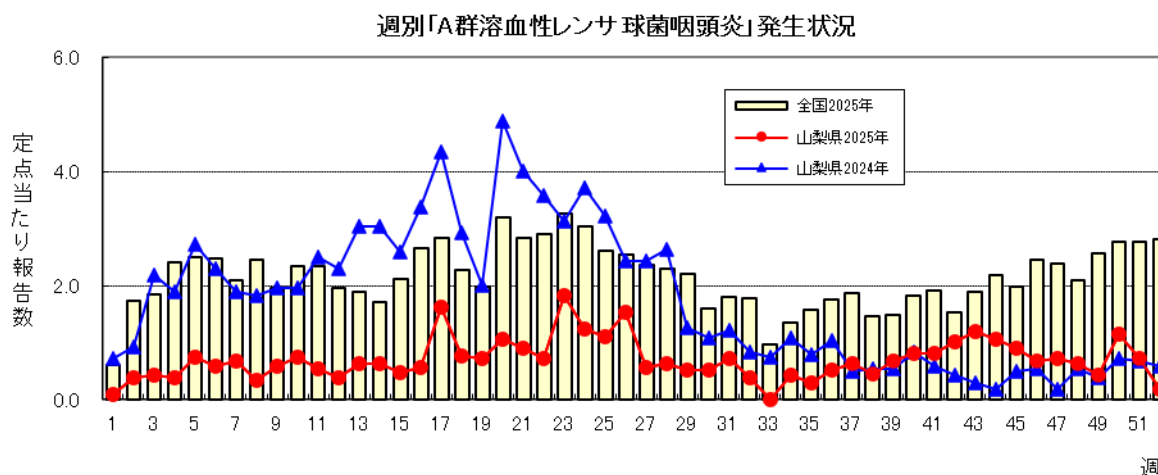
定点から 779 例（定点当たり報告数 37.10）の報告があり、前年（90.33）より減少した。

最近 5 年間は、定点当たり報告数が全国より少ない状況で同様に推移している。



《週別発生状況》

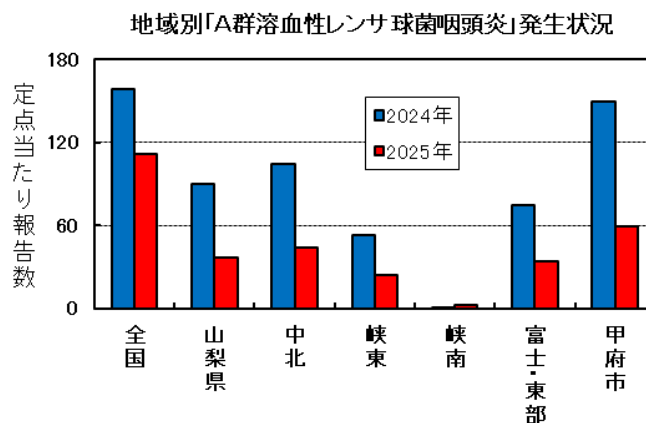
年間をとおして報告があったが、全国より少ない報告数であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（59.25）であった。

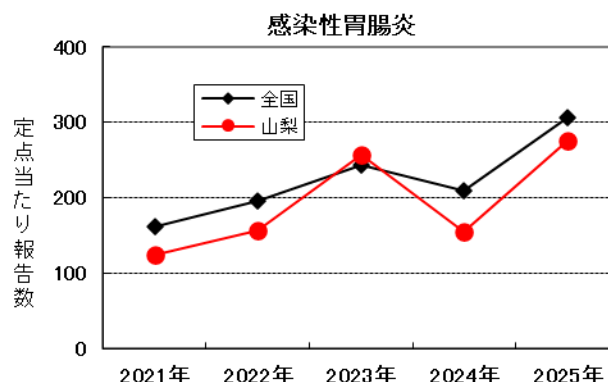
峡南保健所を除く保健所管内では、前年より報告数が減少した。



○ 感染性胃腸炎

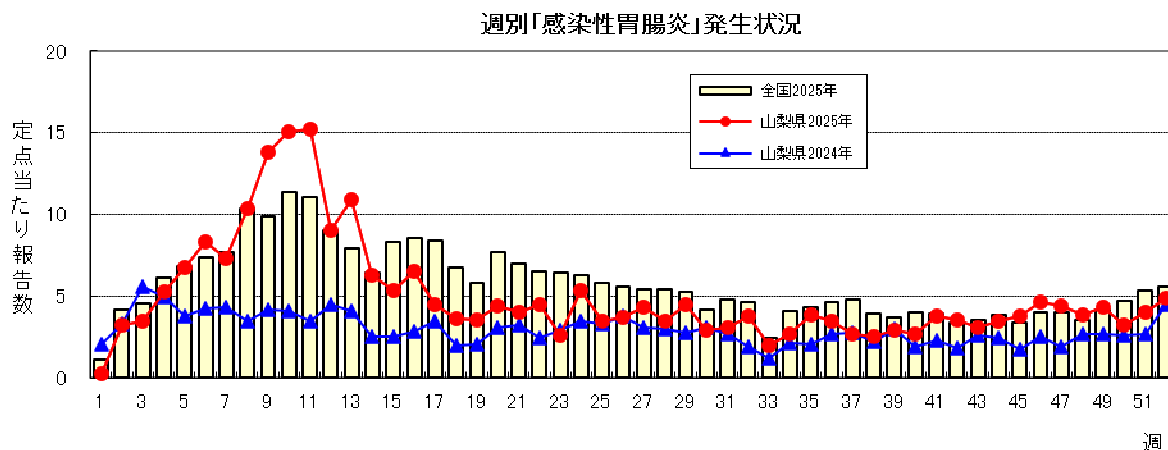
定点から 5,775 例（定点当たり報告数 275.00）の報告があり、前年（154.50）より増加した。

最近 5 年間は、全国と同様に増加傾向で推移している。



《週別発生状況》

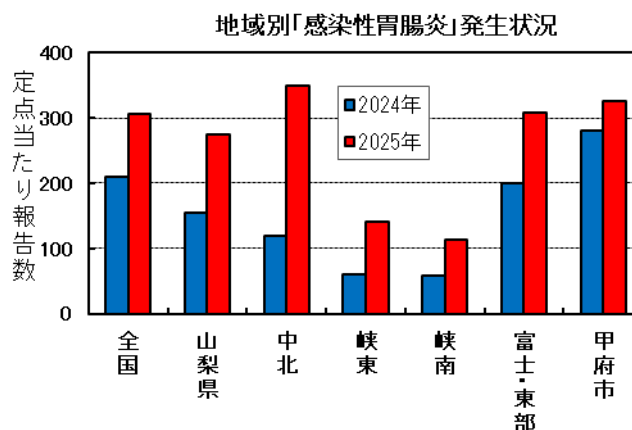
年間をとおして報告があつたが、第 5 週から第 16 週の冬期に報告数が多かった。富士・東部保健所管内では第 9 週から 11 週に警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数は中北保健所管内（350.00）で最も多かった。

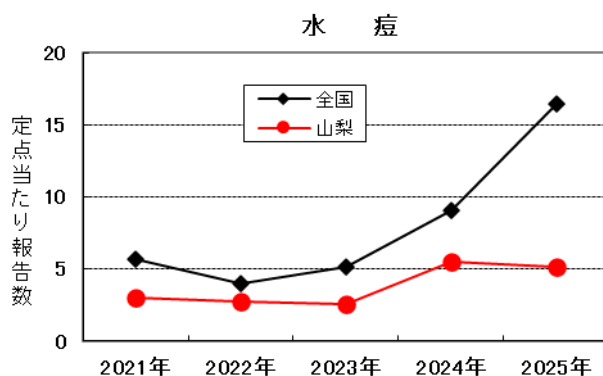
全ての保健所管内で前年より報告数が増加した。



○ 水 痘

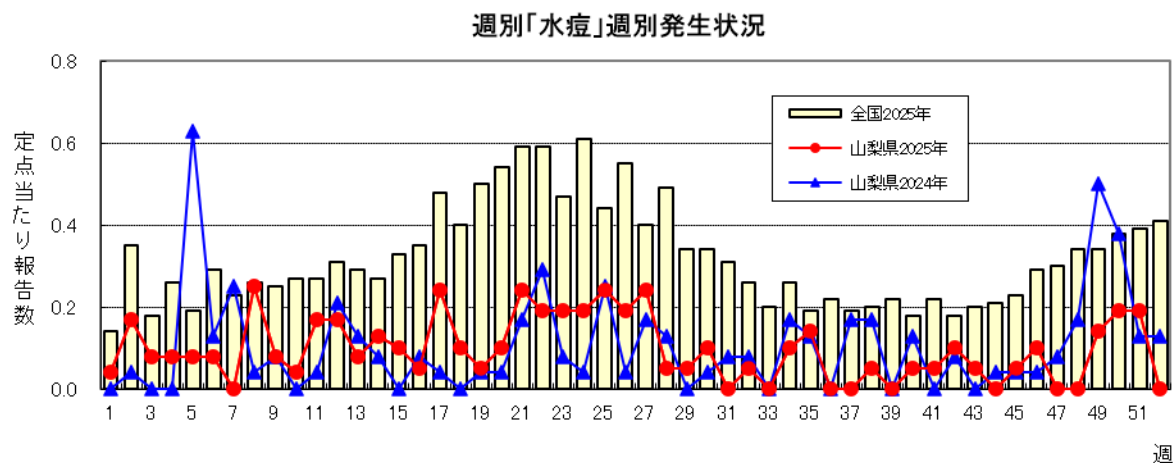
定点から 109 例（定点当たり報告数 5.19）の報告があり、前年（5.54）よりやや減少した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で、ほぼ横ばいで推移している。



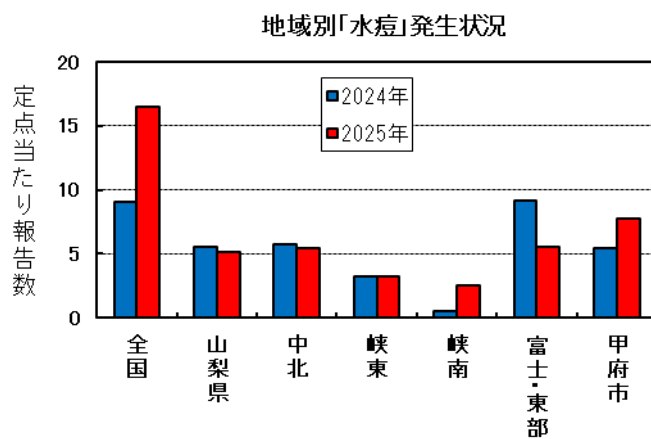
《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、大きな流行はみられなかった。第 25 週には峡南保健所管内で注意報レベルとなった。



《地域別発生状況》

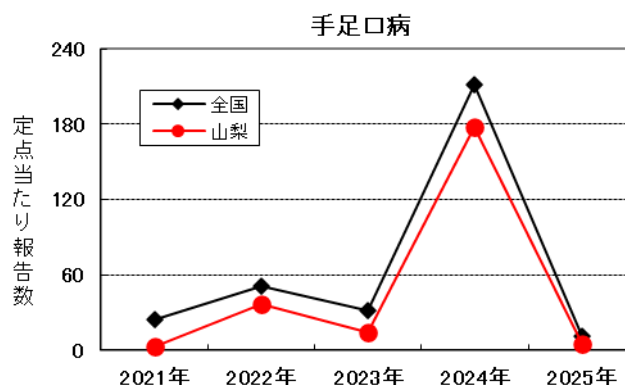
定点当たり報告数が最も多かったのは、甲府市保健所管内（7.75）であった。



○ 手足口病

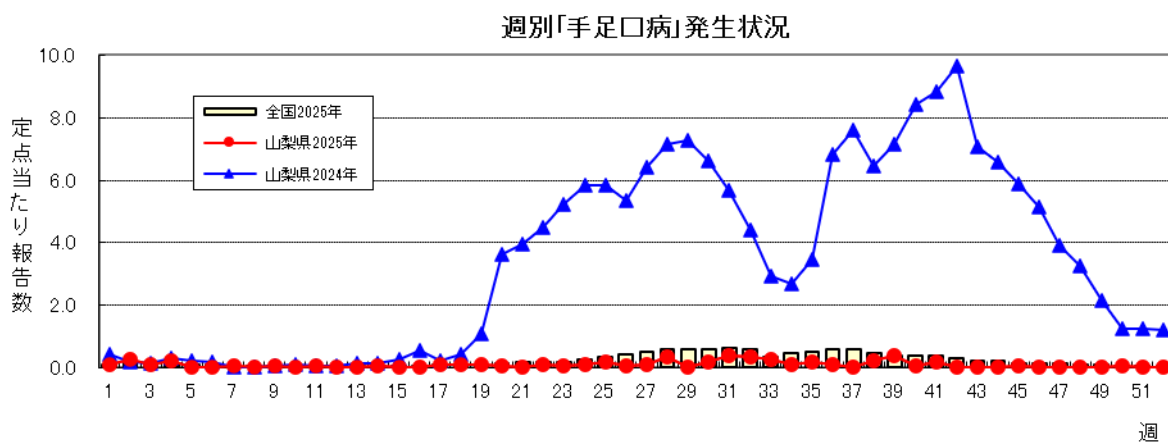
定点から 96 例（定点当たり報告数 4.57）の報告があり、前年（177.75）より大幅に減少した。

最近 5 年間は、全国より少ない状況で同様に推移している。



《週別発生状況》

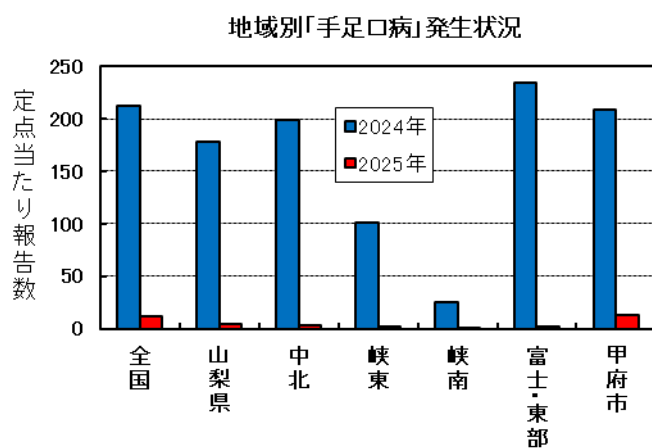
年間をとおして報告があつたが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、甲府市保健所管内（12.75）であった。

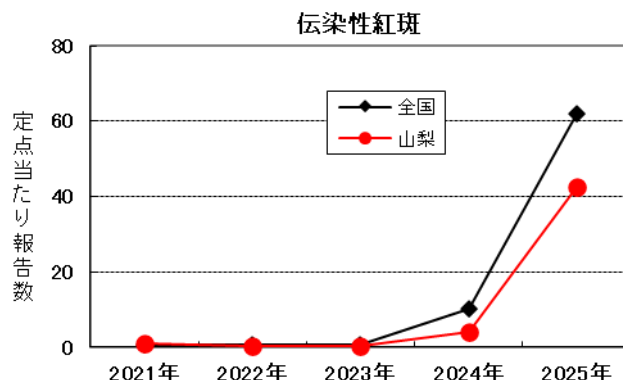
全ての保健所管内で前年より大幅に減少した。



○ 伝染性紅斑

定点から 895 例（定点当たり報告数 42.62）の報告があり、前年（4.21）より大幅に増加した。

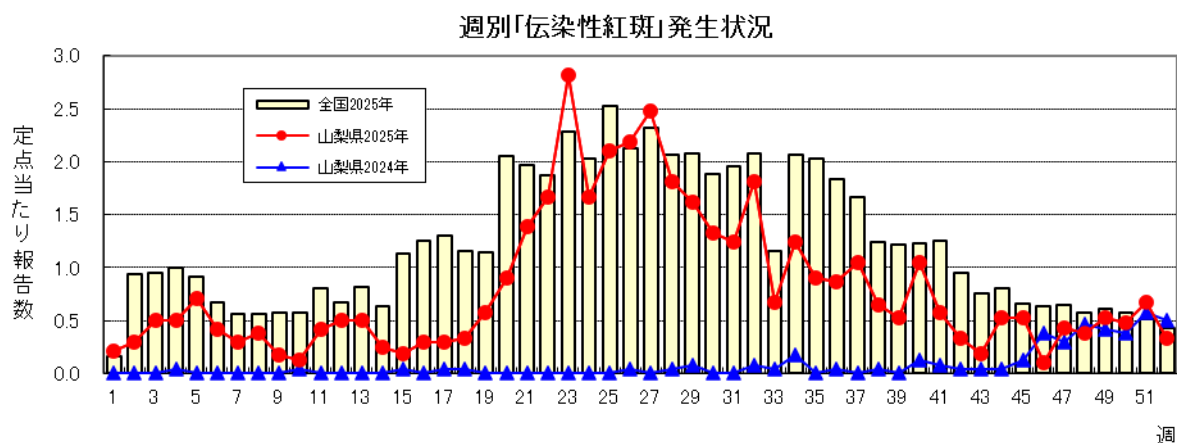
最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

年間をとおして報告があったが、第 22 週から 32 週の報告数が多かった。

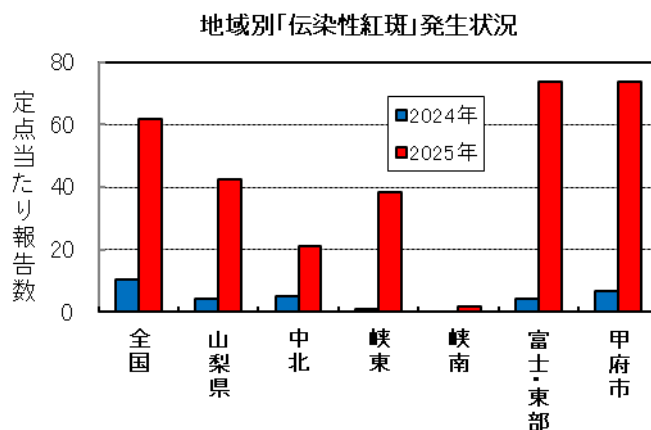
中北保健所、峡東保健所、富士・東部保健所、甲府市保健所管内では、複数週に渡り警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（73.75）、次いで富士・東部保健所管内（73.50）であった。

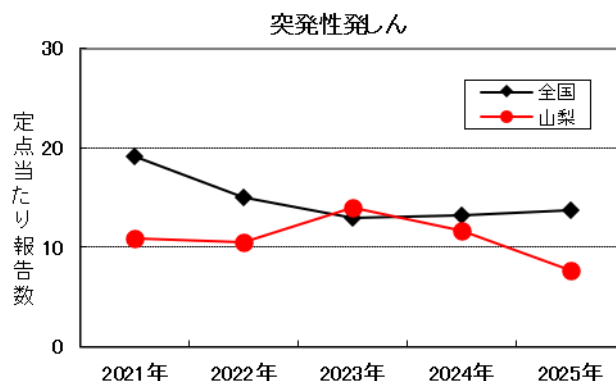
峡南保健所を除く保健所管内で、前年より大幅に増加した。



○ 突発性発しん

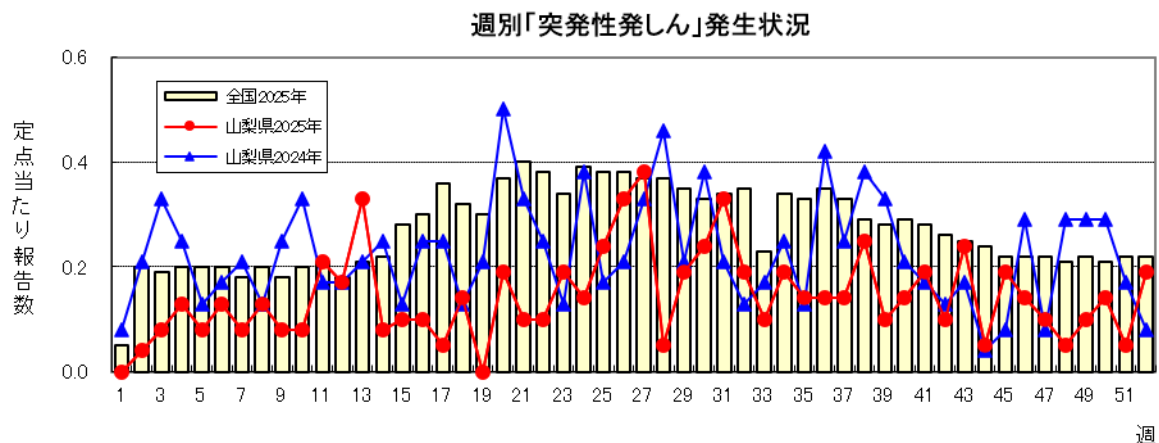
定点から 160 例（定点当たり報告数 7.62）の報告があり、前年（11.71）より減少した。

最近 5 年間はほぼ横ばいで推移している。



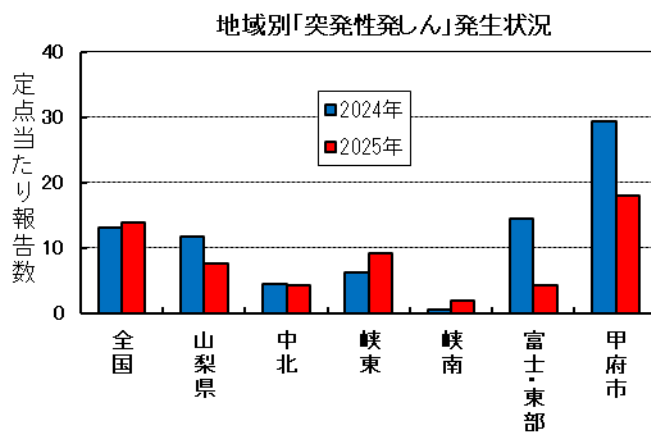
《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

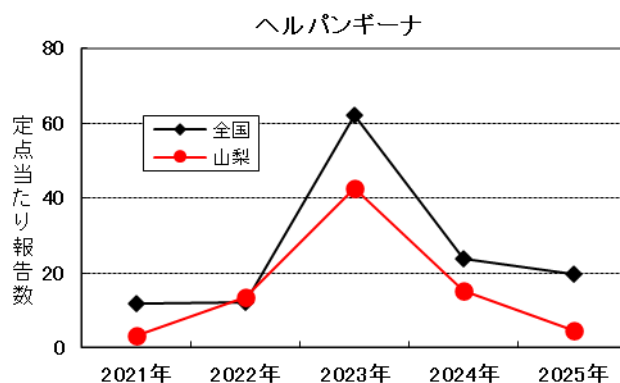
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（18.00）であり、県内報告数の約半数を占めた。



○ ヘルパンギーナ

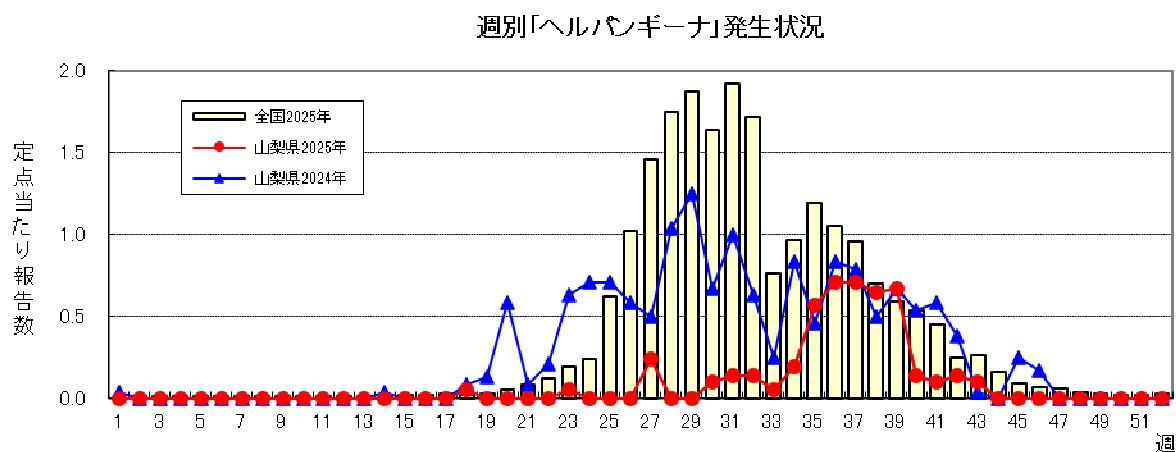
定点から 99 例（定点当たり報告数 4.71）の報告があり、前年（15.17）より減少した。

最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

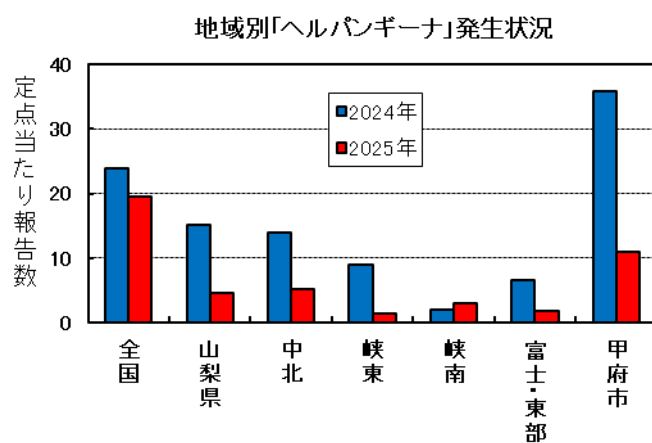
第 34 週から 43 週に報告数が多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（11.00）であり、県内報告数の約半数を占めた。

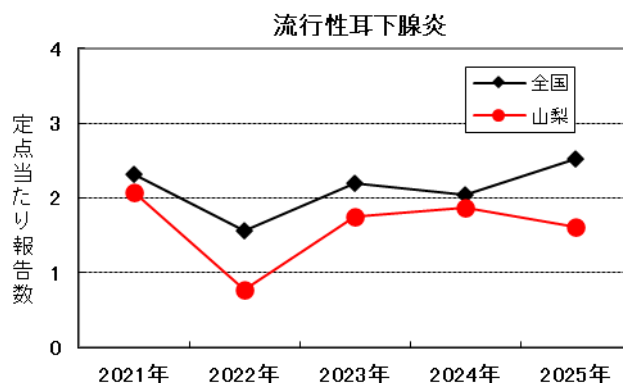
峡南保健所管内を除く全ての保健所管内で前年より報告数が減少した。



○ 流行性耳下腺炎

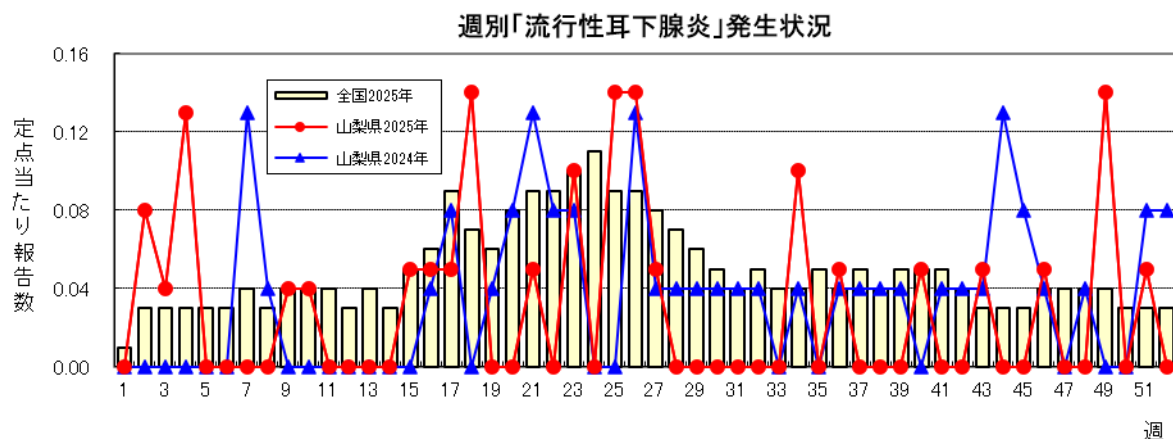
定点から 34 例（定点当たり報告数 1.62）の報告があり、前年（1.88）よりやや減少した。

過去 5 年間は全国より少ない状況で同様に推移している。



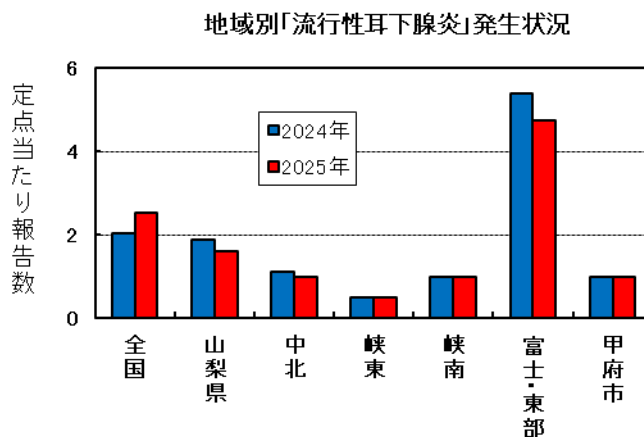
《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（4.75）であり、県内報告数の約 6 割を占めた。

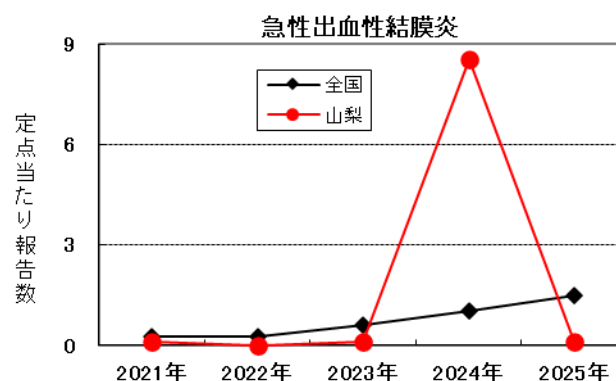


2－3 眼科定点から報告された感染症

眼科定点（9 か所）から、対象感染症である急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎について週報として報告される。総報告数は 577 例で、前年（659 例）より減少した。

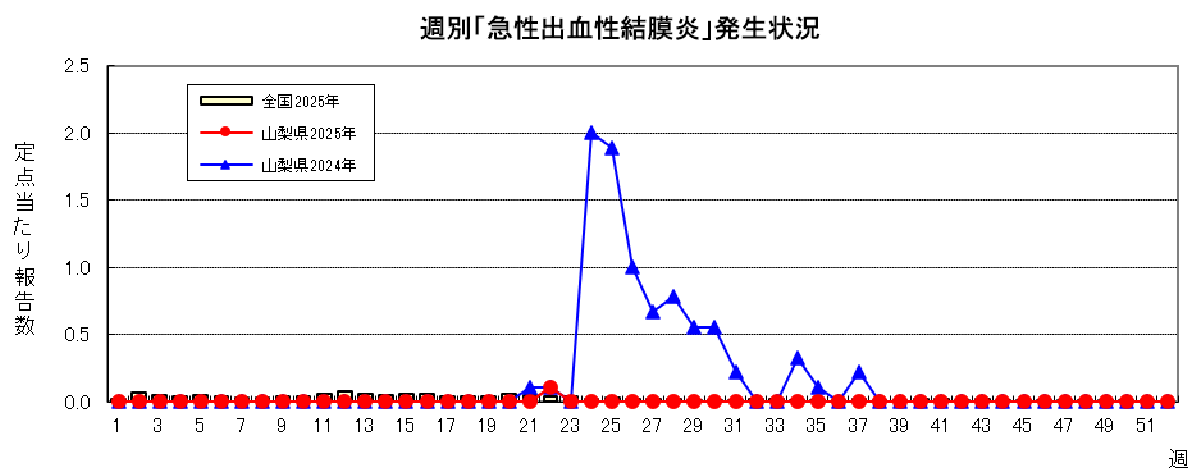
○ 急性出血性結膜炎

定点から 1 例（定点当たり報告数 0.11）の報告があり、前年 77 例（8.56）より大幅に減少した。



《週別発生状況》

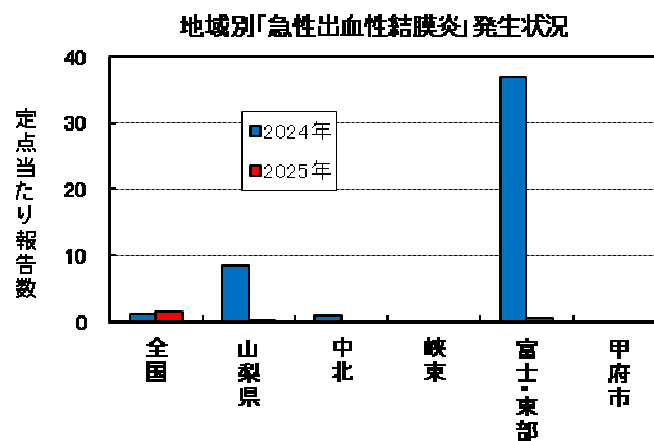
第 22 週に 1 例(0.11)の報告があった。



《地域別発生状況》

報告があったのは富士・東部保健所管内(0.50)のみであった。

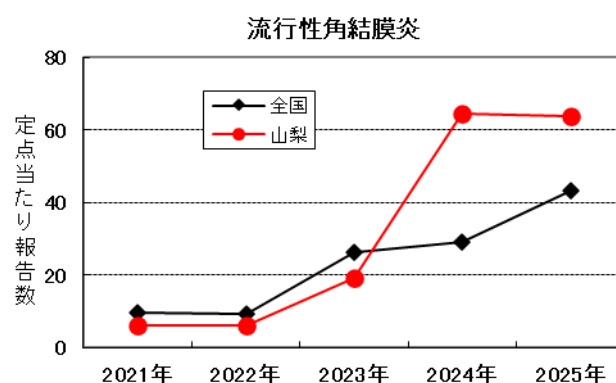
(峡南保健所管内には定点の指定なし)



○ 流行性角結膜炎

定点から 576 例（定点当たり報告数 64.00）の報告があり、前年 582 例（64.67）よりやや増加した。

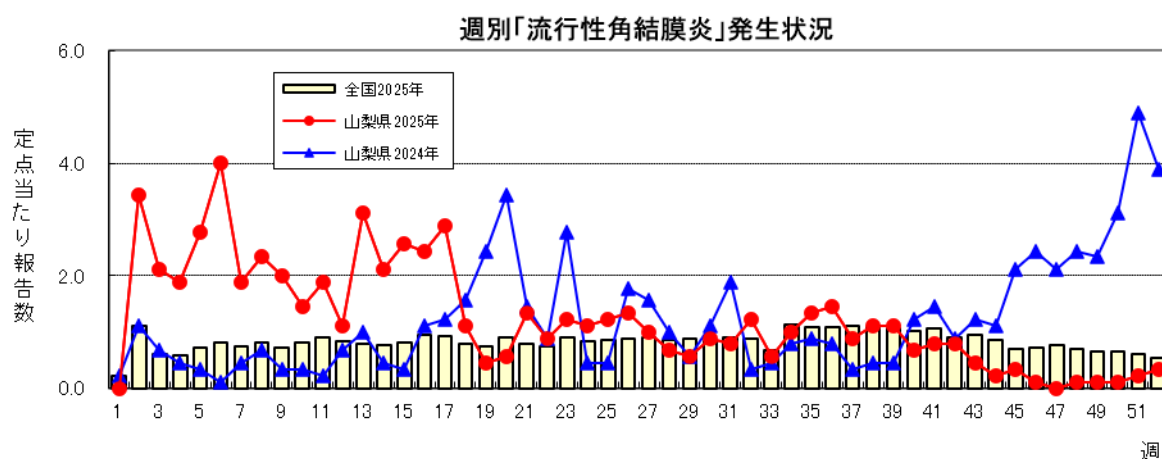
最近 5 年間は増加傾向で推移している。



《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、第 2 週から 17 週に報告数が多かった。

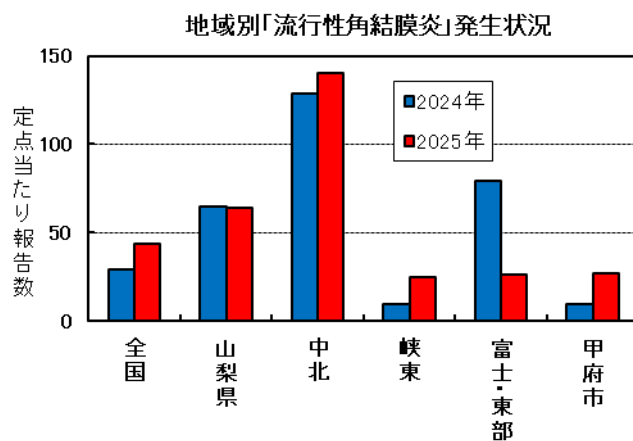
中北保健所管内では第 1 週から 3 週、第 6 週から 9 週にかけて警報レベルとなった（第 1 週は県独自判断による警報発令）。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（140.00）であり、県内報告数の約 7 割を占めた。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



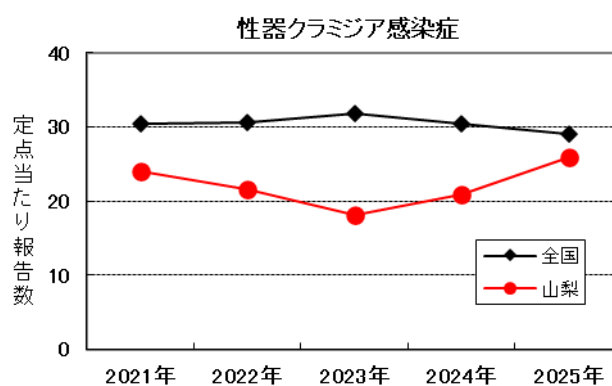
2－4 性感染症定点から報告された感染症

性感染症定点（9 か所）から、対象感染症である性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症について月報として報告される。総報告数は 406 例で、前年（335 例）より増加した。

○ 性器クラミジア感染症

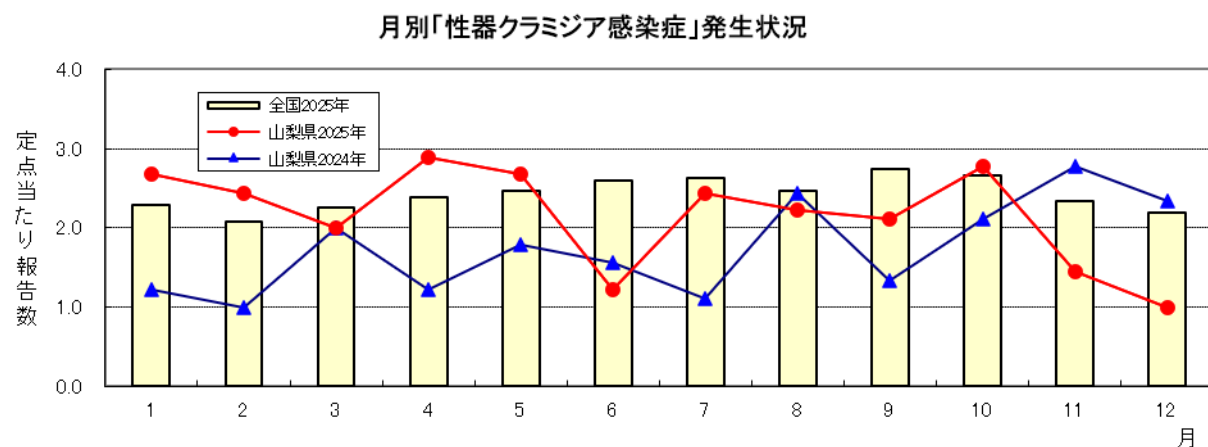
定点から 233 例（定点当たり報告数 25.89）の報告があり、前年 188 例（20.89）より増加した。

2023 年以降、増加傾向で推移している。



《月別報告数》

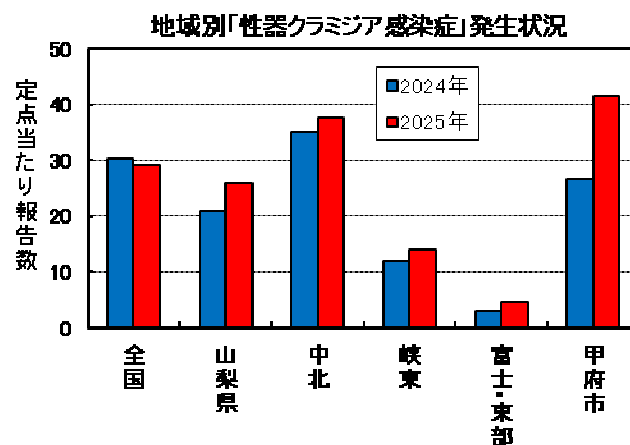
毎月報告があったが、4 月が 26 例（2.89）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（41.50）であった。

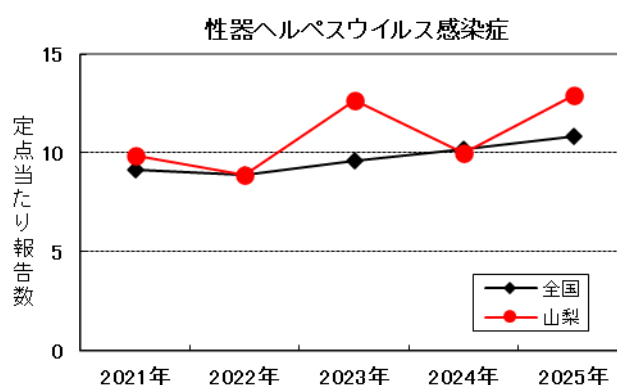
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 性器ヘルペスウイルス感染症

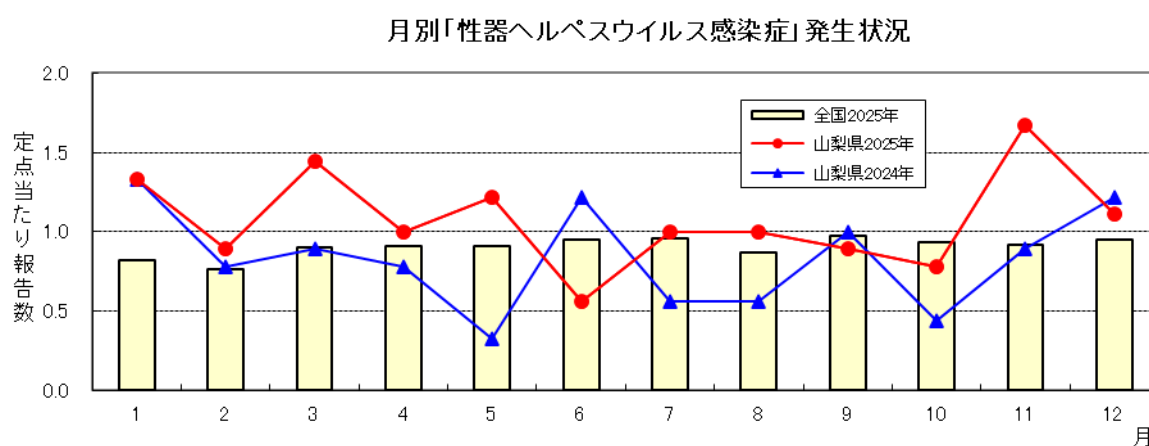
定点から 116 例（定点当たり報告数 12.89）の報告があり、前年 90 例（10.00）より増加した。

最近 5 年間はやや増加傾向で推移している。



《月別発生状況》

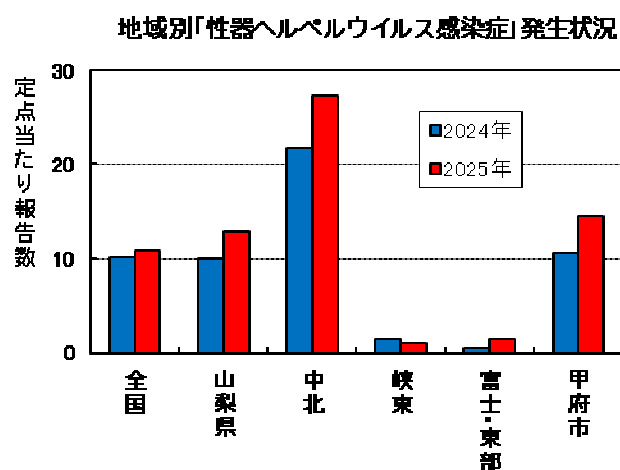
毎月報告があったが、11 月が 15 例（1.67）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（27.33）であり、県内報告数の約 7 割を占めた。

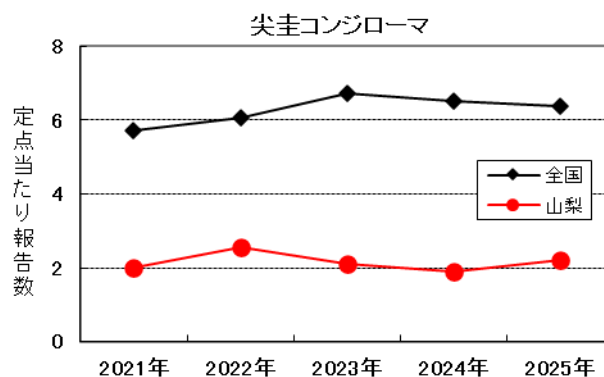
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 尖圭コンジローマ

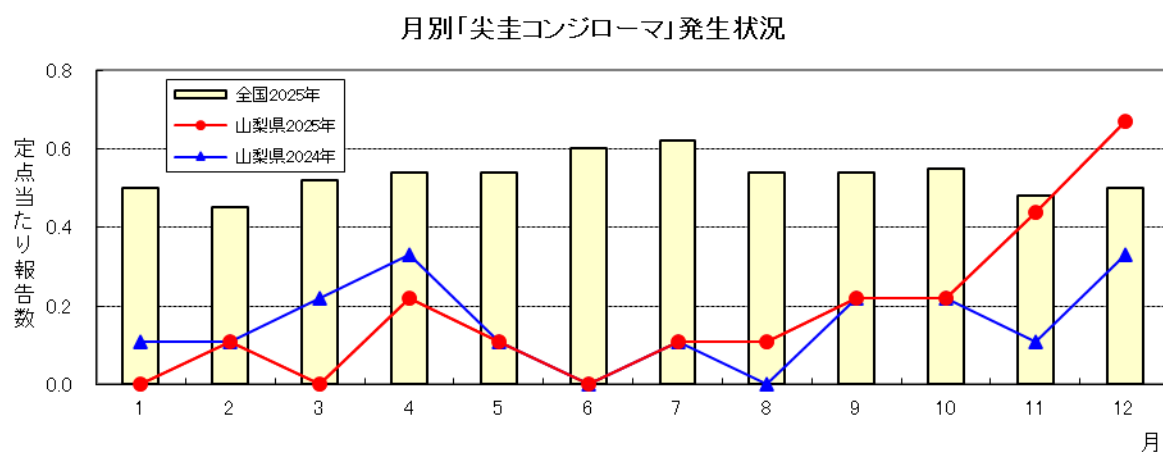
定点から 20 例（定点当たり報告数 2.22）の報告があり、前年 17 例（1.89）よりやや増加した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数でほぼ横ばいで推移している。



《月別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、12 月が 6 例（0.67）と最も多かった。

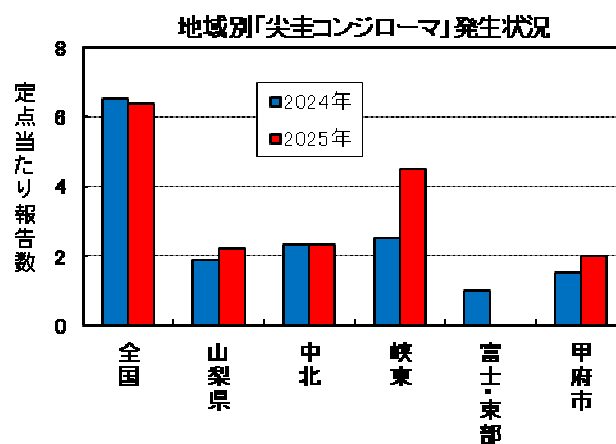


《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内（4.50）であった。

富士・東部保健所管内の報告はなかった。

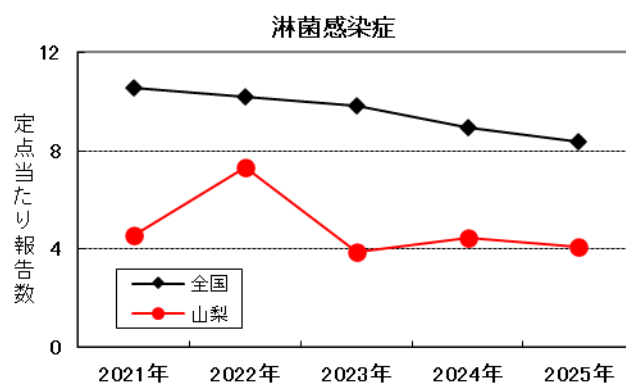
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 淋菌感染症

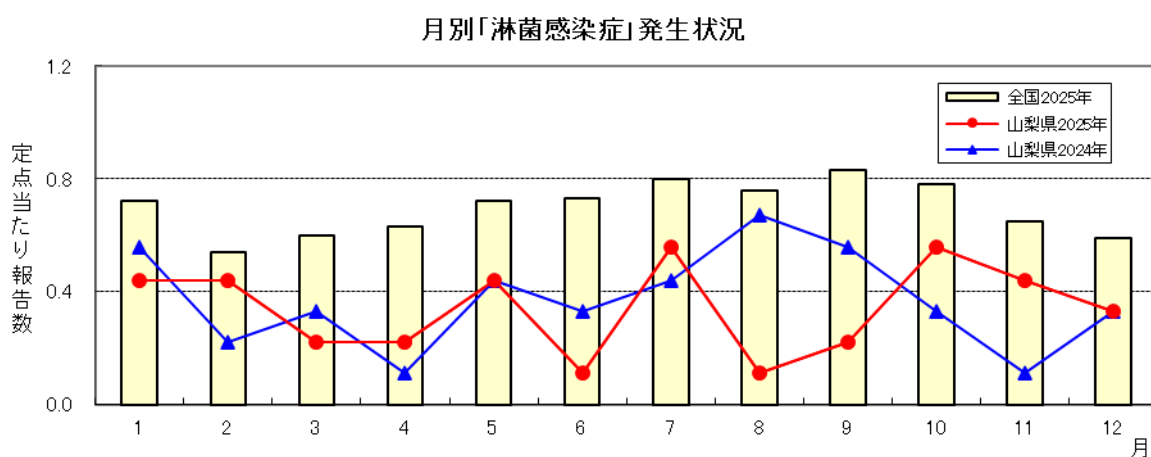
定点から 37 例（定点当たり報告数 4.11）の報告があり、前年 40 例（4.44）よりやや減少した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数で推移している。



《月別発生状況》

毎月報告があったが、7月と10月が5例（0.56）と最も多かった。

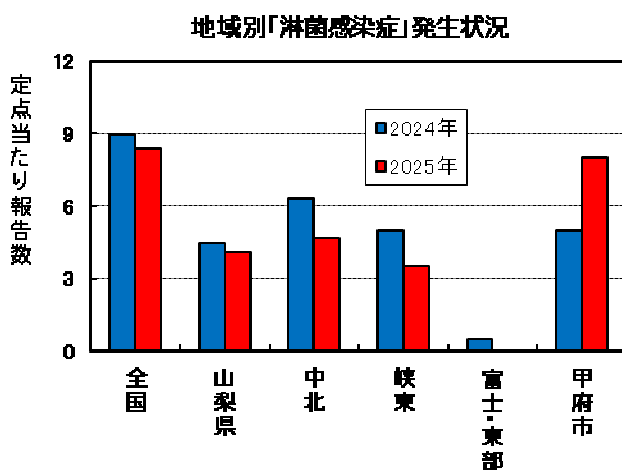


《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（8.00）であった。

富士・東部保健所管内の報告はなかった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



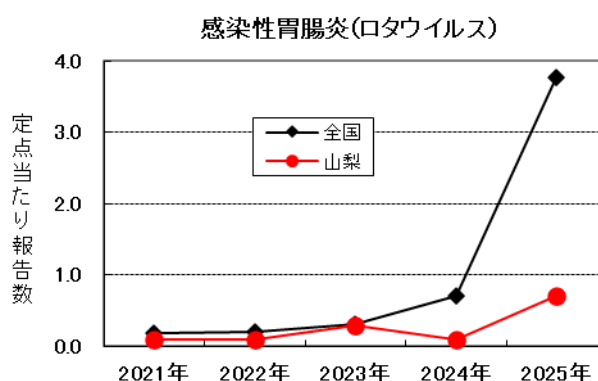
2-5 基幹定点から報告された感染症

基幹定点（10 か所）から、対象感染症である感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）、クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、マイコプラズマ肺炎及び無菌性髄膜炎（5 疾病）は週報として、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、メシチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症（3 疾病）について月報として報告される。総報告数は 316 例で、前年（401 例）より減少した。

○ 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

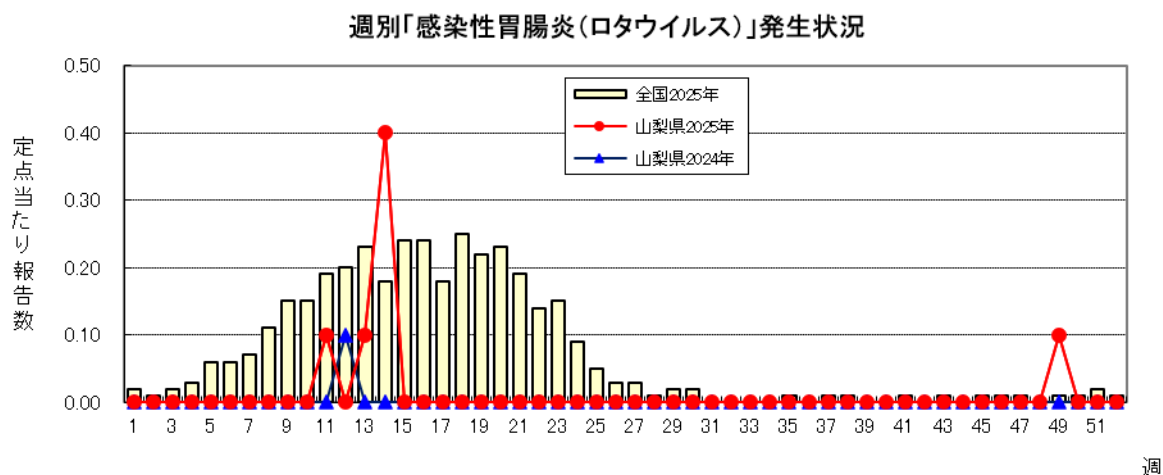
定点から 7 例（定点当たり報告数 0.70）の報告があり、前年 1 例（0.10）より増加した。

最近 5 年間はほぼ横ばい傾向で推移している。



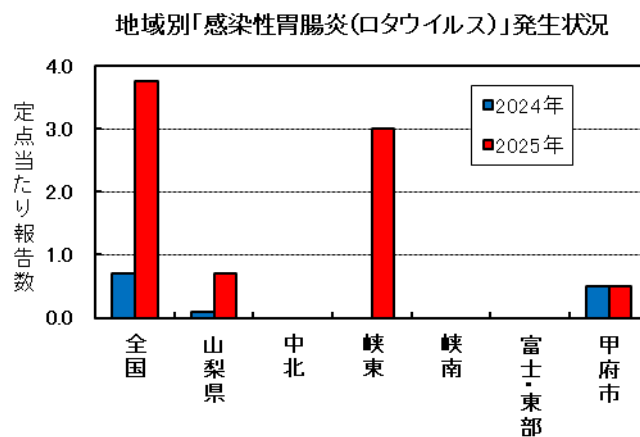
《週別発生状況》

第 11 週、13 週、14 週、49 週に報告があったが、第 14 週が 4 例（0.40）と最も多かった。



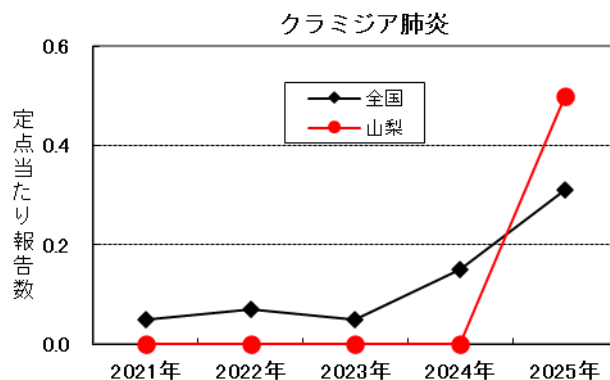
《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、峡東保健所管内（3.00）であり、県内報告数の約 9 割を占めた。



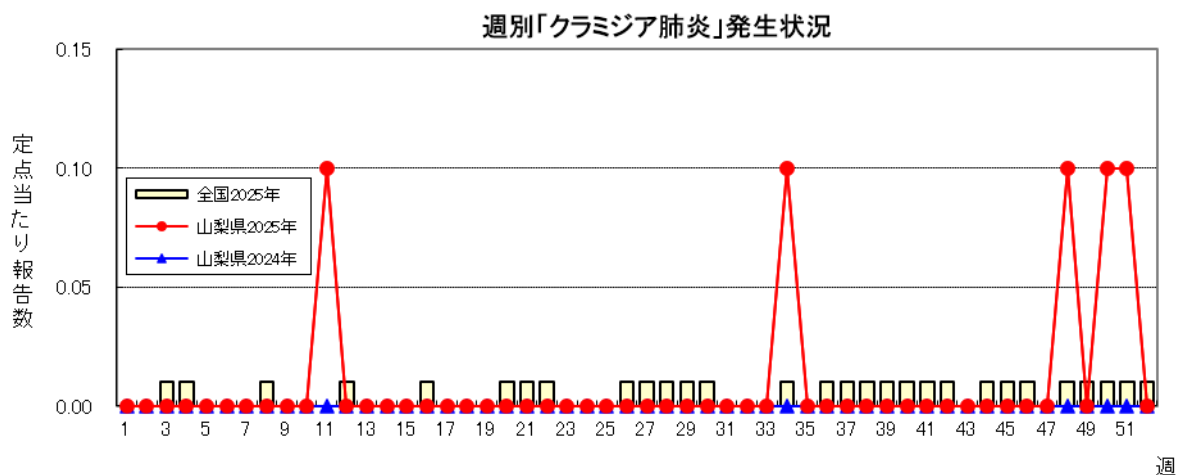
○ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

定点から 5 例（定点当たり報告数 0.50）の報告があり、前年（0.00）より増加した。



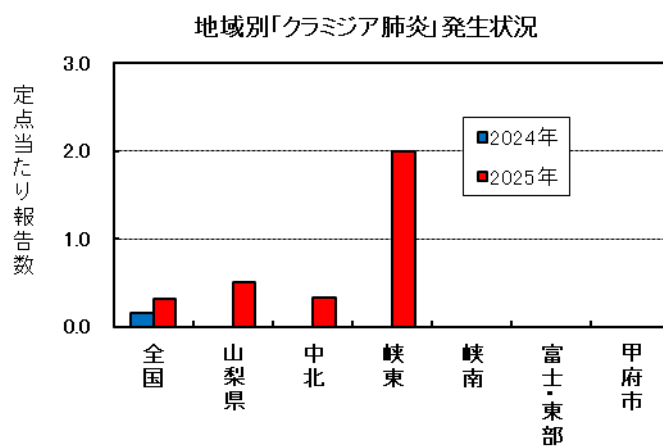
《週別発生状況》

第 11 週、34 週、48 週、50 週、51 週に各 1 例（0.10）の報告があった。



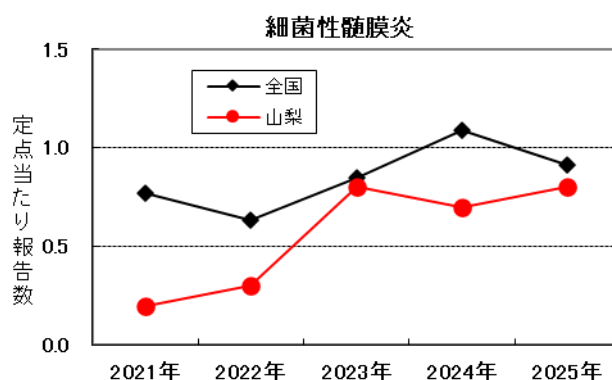
《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、峡東保健所管内（2.00）であり、県内報告数の約 8 割を占めた。



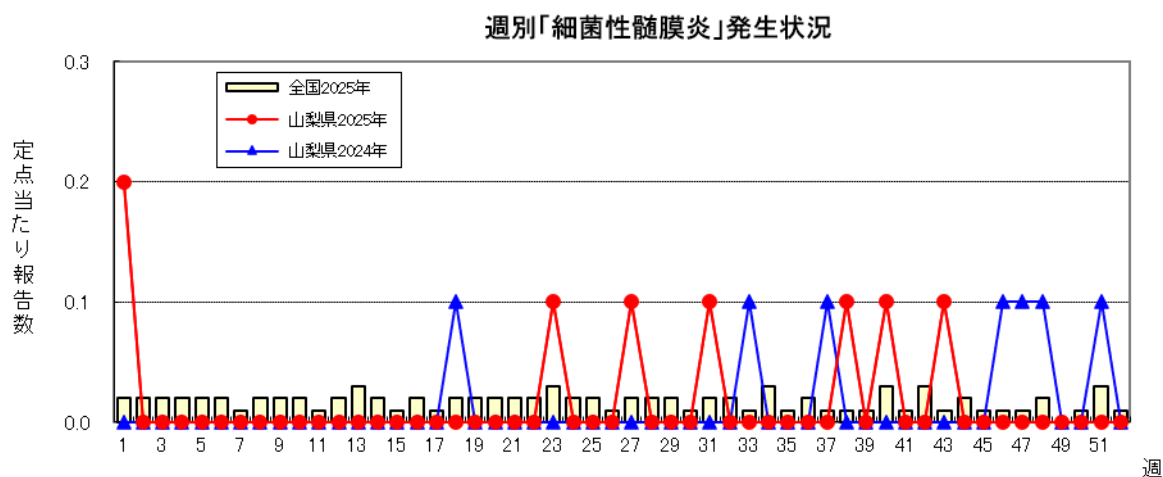
○ 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）

定点から 8 例（定点当たり報告数 0.80）の報告があり、前年 7 例（0.70）より 1 例増加した。



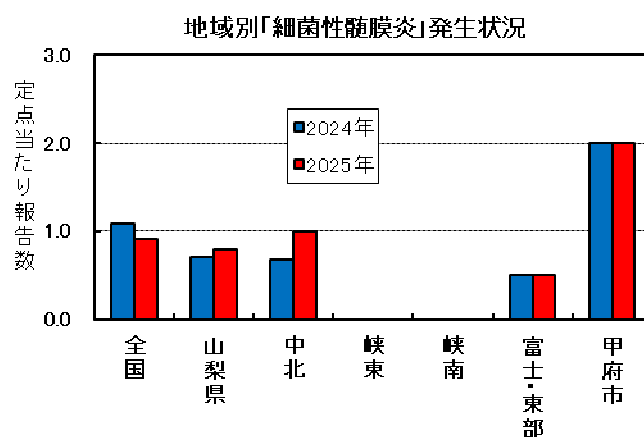
《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、第 1 週が 2 例(0.20)と最も多かった。



《地域別発生状況》

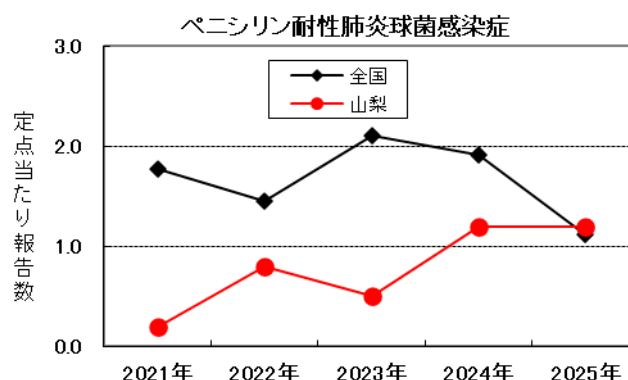
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（2.00）であり、県内報告数の約半数を占めた。



○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

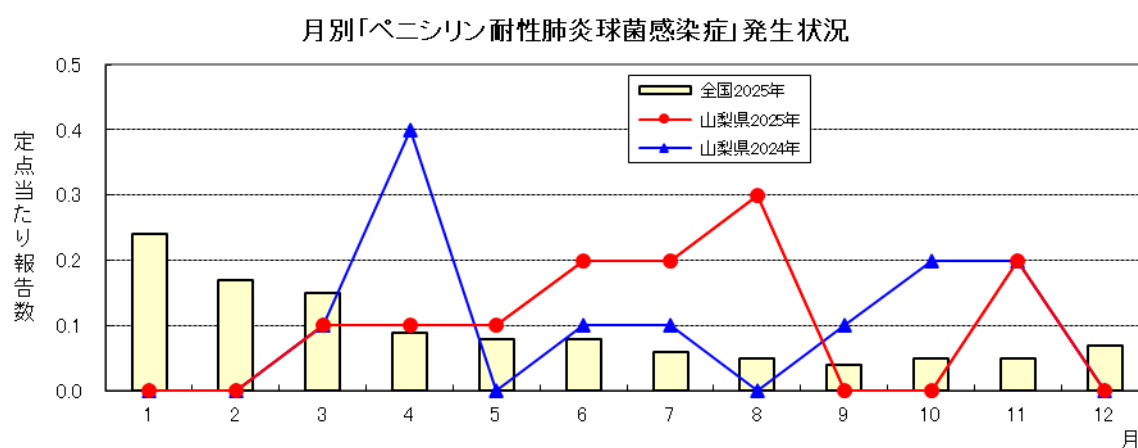
定点から12例（定点当たり報告数1.20）の報告があり、前年と同じ報告数であった。

最近5年間はやや増加傾向で推移している。



《月別発生状況》

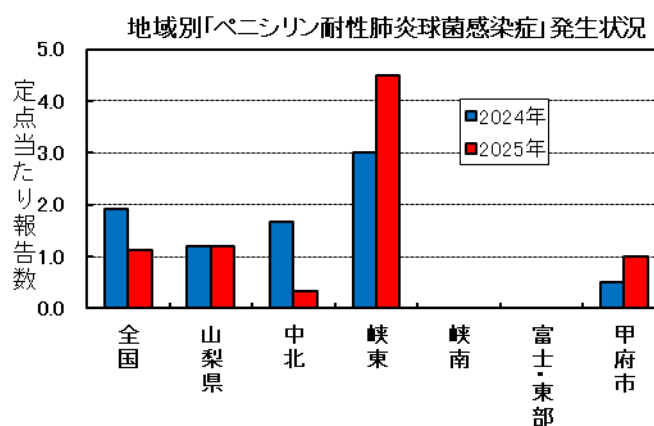
年間をとおして報告があったが、8月が3例（0.3）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内(4.50)であり、県内報告数の約8割を占めた。

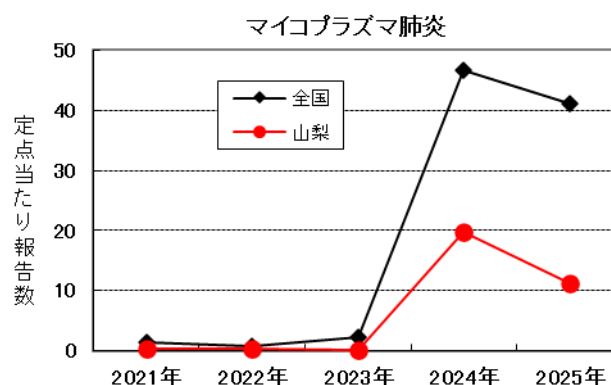
峡南保健所、富士・東部保健管内の報告はなかった。



○ マイコプラズマ肺炎

定点から 112 例（定点当たり報告数 11.20）の報告があり、前年 198 例（19.80）より減少した。

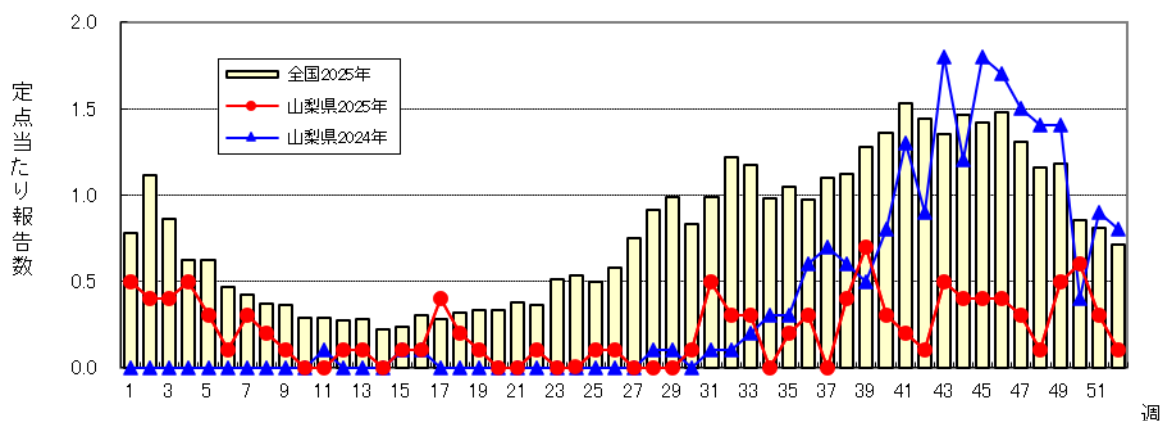
最近5年間は全国より少ない報告数で同様に推移している。



《週別発生状況》

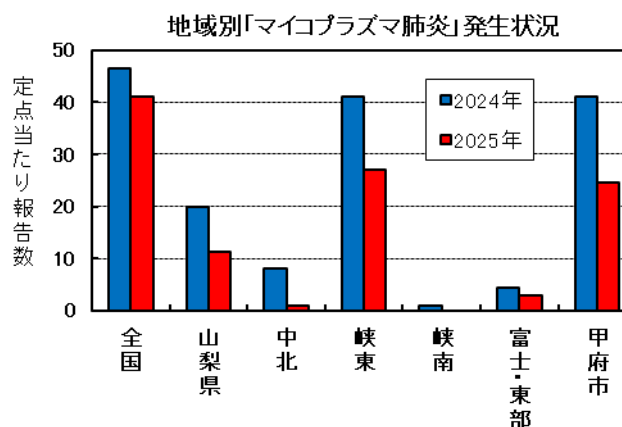
年間をとおして報告があったが、第 39 週が 7 例（0.70）と最もかった。

週別「マイコプラズマ肺炎」発生状況



《地域別発生状況》

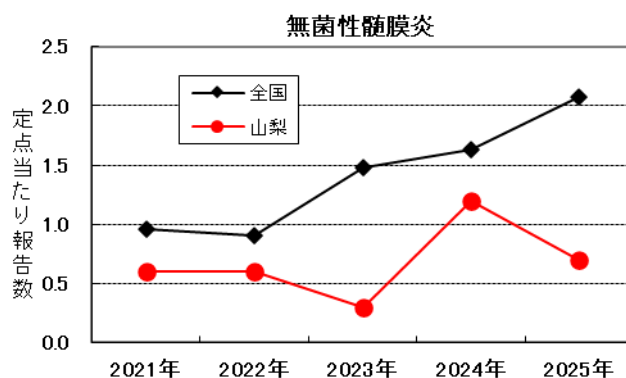
定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内（27.00）であった。次いで、甲府市保健所管内（24.50）が多く、2 保健所管内で県内報告数の約 9 割を占めた。



○ 無菌性髄膜炎

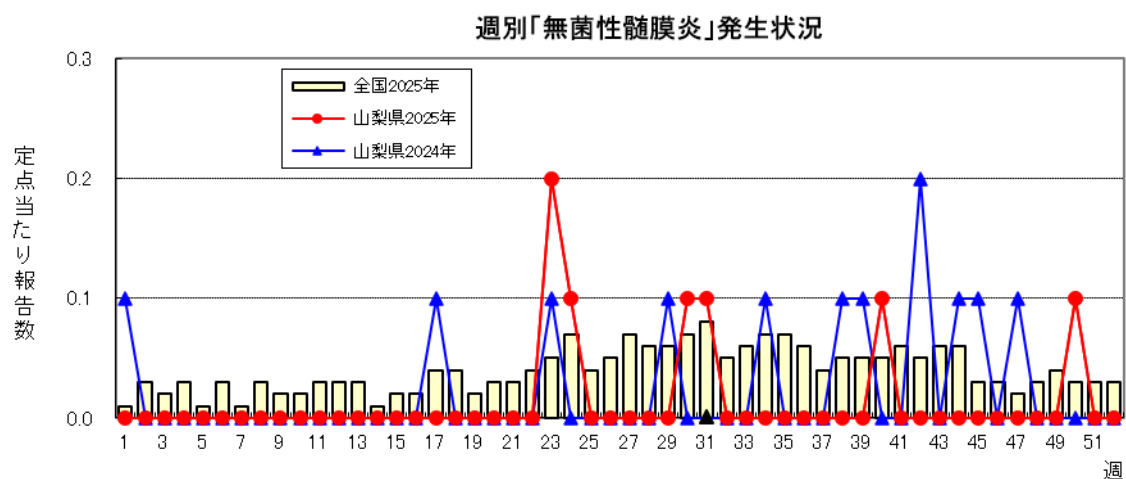
定点から 7 例（定点当たり報告数 0.70）の報告があり、前年 12 例（1.20）より減少した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で推移している。



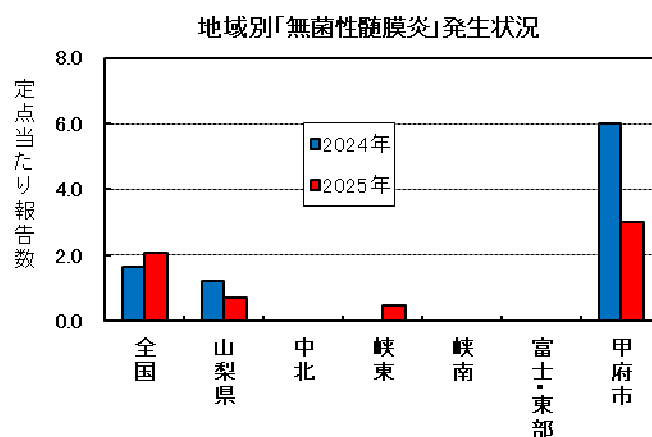
《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、第 23 週が 2 例（0.2）と最も多かった。



《地域別発生状況》

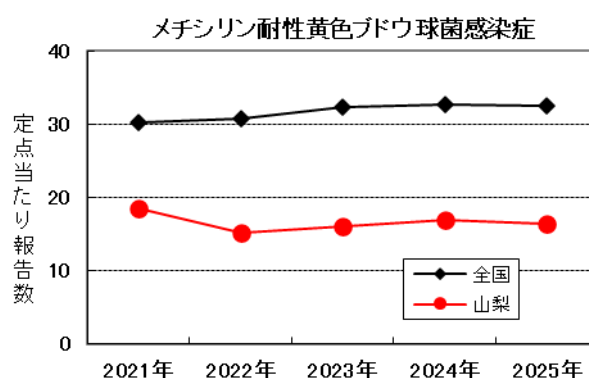
定点当たりの報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（3.00）であり、県内報告数の約 9 割を占めた。



○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

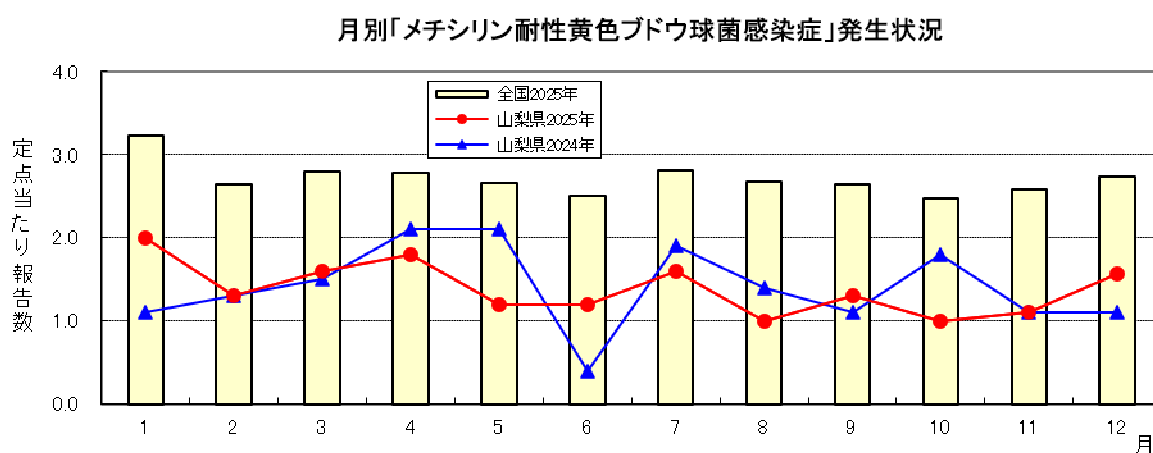
定点から 165 例（定点当たり報告数 16.50）の報告があり、前年 169 例（16.90）よりやや減少した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数でほぼ横ばいで推移している。



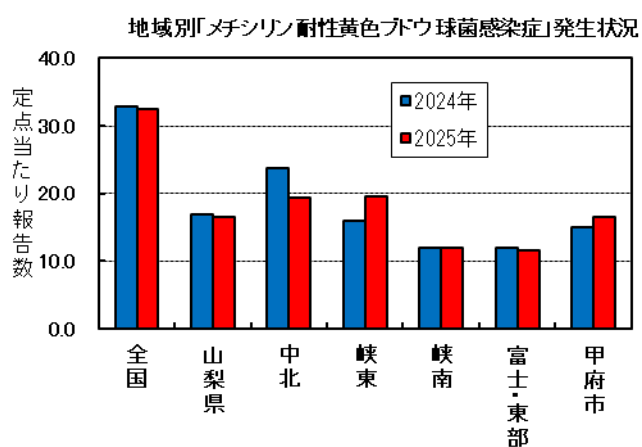
《月別発生状況》

年間をとおして報告があったが、全国より少ない報告数であった。



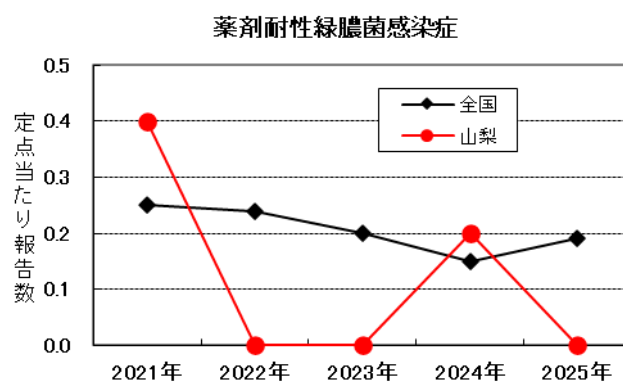
《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内（19.50）であり、次いで中北保健所管内（19.33）であった。



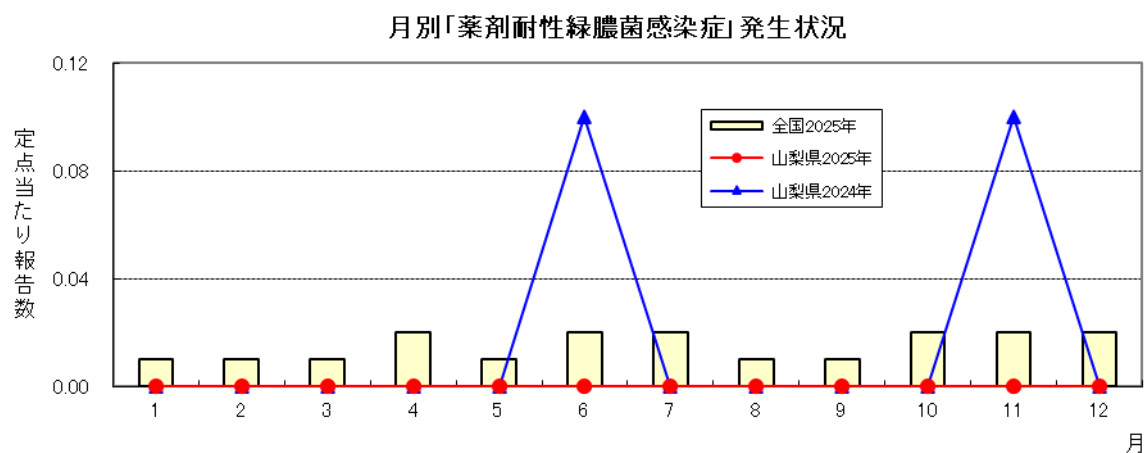
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点からの報告はなく、前年 2 例
(0.20) より減少した。



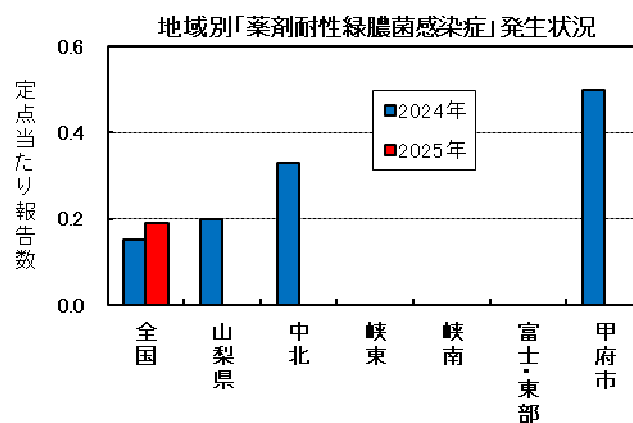
《月別発生状況》

定点からの報告はなかった。



《地域別発生状況》

定点からの報告はなかった。



Ⅲ 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況

病原体定点（19 か所）及び集団発生事例で採取された臨床検体 986 検体について、県衛生環境研究所でウイルス検査を実施した。急性呼吸器感染症については、4 月から 8 項目（インフルエンザウイルス A 型・B 型、RS ウイルス A 型、パラインフルエンザウイルス 3 型・4 型、ヒトメタニューモウイルス、ライノ／エンテロウイルス、アデノウイルス、新型コロナウイルス）の検査を開始し、10 月からは RS ウイルス B、パラインフルエンザウイルス 1 型・2 型を追加して 12 項目の検査を実施した。

検出されたウイルス 527 件のうち最も多かったのはノロウイルス 190 件で、全ウイルスの 36.1% を占めた。他に多く検出されたのは、ライノ／エンテロウイルス 110 件、インフルエンザウイルス 62 件、新型コロナウイルス 61 件であった。

検出ウイルス		2025年												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザウイルス	A(H1)pdm09	13	3	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1	21
	A(H3)亜型	3	1	2	-	1	-	-	-	1	2	7	13	30
	B型ビクトリア系統	-	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	8
	ワクチン由来											2	1	3
RSウイルス	A/B型	-	-	-	-	-	-	-	1	2				3
	A型										-	1	-	1
	B型										-	1	3	4
パラインフルエンザウイルス	1型										-	-	2	2
	2型										5	1	-	6
	3型	-	-	-	3	6	13	4	1	-	1	-	-	28
	4型	-	-	-	1	3	2	5	1	-	1	1	1	15
ヒトメタニューモウイルス		-	-	-	4	1	1	1	-	1	-	-	-	8
ライノ／エンテロウイルス		-	-	-	8	10	15	20	10	6	20	12	9	110
アデノウイルス	54型	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	1	4
	型別不明	-	-	-	2	3	5	2	2	1	1	-	1	17
新型コロナウイルス		7	-	-	1	2	1	13	10	4	10	9	4	61
ノロウイルス	GI	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	5
	GII	15	50	58	15	3	-	-	-	-	13	1	30	185
サポウイルス		-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	12
ロタウイルス	A群	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
A型肝炎ウイルス	IB型	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
計		38	55	66	35	37	38	57	27	16	57	35	66	527

2 細菌検出状況

三類感染症の患者から分離された菌株について県衛生環境研究所で同定試験、血清型及び毒素型検査を実施したところ、次のとおりであった。

検出月	疾病名	検出菌	検出数
6月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0157:H7 (Stx1, 2)	1
7月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0157:H7 (Stx1, 2)	1
		EHEC 026:H11 (Stx1)	2
8月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0157:HNT (Stx1, 2)	1
9月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 026:HNT (Stx1)	1
11月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0157:H7 (Stx1, 2)	2

EHEC : 腸管出血性大腸菌 HNT : H型別未実施

IV 參考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

2025年4月7日現在

	患者定点							病原体定点				医療機関名称
	小	内	ARI	眼	S	基	疑	ARI	小	眼	基	
甲府	○	○						○				隈部小児科医院
	○	○						○				今井小児科
	○	○						○				小松小児科医院
	○	○										横田内科小児科医院
		○	○									竹居医院
		○	○									内科小児科小野医院
		○	○									ほしの内科クリニック
				○					○			佐々木眼科医院
				○								二宮眼科医院
					○							梶山クリニック
					○							鈴木・野村泌尿器科クリニック
						○	○		○			市立甲府病院
						○	○		○			地方独立行政法人山梨県病院機構山梨県立中央病院
	4	3	7	2	2	2	2	1	2	1	2	
中北	○	○										中島医院
	○	○										森川医院
	○	○										西野内科医院
		○	○									竜王共立診療所
		○	○									大沢医院
				○								フルヤ眼科医院
					○							竜王レディースクリニック
						○			○			山梨大学医学部附属病院
	○	○						○				三井医院
	○	○										にこにこクリニック こでら小児科
	○	○										こもれびこどもクリニック
	○	○										いいつかこどもとおとなのクリニック
		○	○									北杜市立白州診療所
		○	○									本町クリニック
		○	○									志村内科医院
				○								千野眼科医院
				○								堀内眼科
					○							まえざわクリニック
					○							田辺産婦人科
						○			○			巨摩共立病院
						○	○		○			北杜市立甲陽病院
	7	5	12	3	3	3	1	1	-	-	3	

	患者定点							病原体定点			医療機関名称		
	小	内	ARI	眼	S	基	疑	ARI	小	眼			
峡東	○		○										篠原医院
	○		○										三枝クリニック
	○		○										あめみや医院
	○		○						○				池田内科小児科医院
		○	○										松里診療所
		○	○										飯島医院
				○									古川眼科医院
				○									古屋眼科
					○								加納岩総合病院
					○								長坂クリニック
					○	○			○			山梨厚生病院	
					○				○			甲州リハビリテーション病院	
	4	2	6	2	2	2	1	1	-	-	2		
峡南	○		○						○				溝部医院
	○		○										南部町国民健康保険診療所
		○	○										飯富病院
						○	○		○				富士川病院
	2	1	3	-	-	1	1	1	-	-	1		
富士・東部	○		○						○				吉田医院
	○		○						○				武井クリニック
	○		○										都留市立病院
	○		○										つゆきこどもクリニック
		○	○										堀田医院
		○	○										川原医院
		○	○										富士ニコニコクリニック
				○									小林眼科医院
				○									野村眼科医院
					○								武者医院
					○								渡辺医院
						○	○			○			国民健康保険 富士吉田市立病院
						○	○			○			地方独立行政法人大月市立中央病院
		4	3	7	2	2	2	2	1	1	-	2	
合計	21	14	35	9	9	10	7	5	3	1	10		

【患者定点】

小 : 小児科定点
 内 : 内科定点
 ARI : 急性呼吸器感染症定点
 眼 : 眼科定点
 S : 性感染症定点
 基 : 基幹定点
 疑 : 疑似症定点

【病原体定点】

ARI : 急性呼吸器感染症病原体定点
 小 : 小児科病原体定点
 眼 : 眼科病原体定点
 基 : 基幹病原体定点

2 全数把握対象感染症の報告数

感染症	報告数		感染症	報告数	
	全国	山梨県		全国	山梨県
一類感染症			日本紅斑熱	675	-
エボラ出血熱	-	-	日本脳炎	4	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-
痘そう	-	-	Bウイルス病	-	-
南米出血熱	-	-	鼻疽	-	-
ペスト	-	-	ブルセラ症	2	-
マールブルグ病	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-
ラッサ熱	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-
二類感染症			発しんチフス	-	-
急性灰白髄炎	-	-	ボツリヌス症	1	-
結核	15,041	59	マラリア	22	-
ジフテリア	-	-	野兔病	-	-
重症急性呼吸器症候群 (SARSコロナウイルスに限る。)	-	-	ライム病	18	-
中東呼吸器候群 (MERSコロナウイルスに限る。)	-	-	リッサウイルス感染症	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	リフトバレー熱	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	類鼻疽	1	-
三類感染症			レジオネラ症	2,446	16
コレラ	4	-	レプトスピラ症	64	-
細菌性赤痢	59	-	ロッキー山紅斑熱	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	4,358	12	五類感染症		
腸チフス	32	-	アメーバ赤痢	454	5
パラチフス	8	-	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	263	2
四類感染症			カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感 染症	1,206	5
E型肝炎	588	1	急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く。)	38	-
ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	-	-	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ 媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペ ネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除 く。)	637	6
A型肝炎	134	2	クリプトスポリジウム症	23	-
エキノコックス症	27	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	188	6
エムボックス	23	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1,388	12
黄熱	-	-	後天性免疫不全症候群	881	3
オウム病	12	-	ジアルジア症	35	-
オムスク出血熱	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	652	3
回帰熱	6	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	86	-
キャサヌル森林病	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	3,416	19
Q熱	-	-	水痘(入院例)	676	3
狂犬病	-	-	先天性風しん症候群	-	-
コクシジオイデス症	7	-	梅毒	13,662	50
ジカウイルス感染症	1	-	播種性クリプトコックス症	179	1
重症熱性血小板減少症候群 (SFTSウイルスに限る。)	191	-	破傷風	94	2
腎症候性出血熱	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
西部ウマ脳炎	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	91	-
ダニ媒介脳炎	2	-	百日咳	89,575	439
炭疽	-	-	風しん	12	-
チクングニア熱	21	-	麻しん	265	-
つつが虫病	295	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	9	-
デング熱	165	-	新型インフルエンザ等感染症		
東部ウマ脳炎	-	-	新型インフルエンザ	-	-
鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く。)	-	-			
ニパウイルス感染症	-	-			

(2026年3月集計)

3 全数把握対象感染症の月別報告数

感染症	診断月											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
結核	2	7	5	2	2	3	7	4	4	11	7	5
腸管出血性大腸菌感染症	-	-	-	1	1	-	5	2	-	-	2	1
E型肝炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
A型肝炎	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
レジオネラ症	1	1	-	1	1	2	1	-	4	1	3	1
アメーバ赤痢	-	-	1	-	-	1	-	1	1	-	1	-
ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1
急性脳炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1	1	1	-	-	2	-	-	-	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	3	-	2	-	-	-	-	1	2	1	1
後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症	4	3	3	-	1	1	-	1	2	-	2	2
水痘(入院例)	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
梅毒	6	2	5	3	3	8	2	8	4	2	1	6
播種性クリプトコックス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
破傷風	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
百日咳	1	5	7	31	49	61	92	65	43	38	33	14

(2026年3月集計)

4 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数

感染症	全 国		山 梨 県	
	報告数	定点当たり 報告数	報告数	定点当たり 報告数
RSウイルス感染症	110,707	43.53	326	15.52
咽頭結膜熱	47,104	18.52	228	10.86
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	284,574	111.90	779	37.10
感染性胃腸炎	780,586	306.95	5,775	275.00
水 痘	41,839	16.45	109	5.19
手足口病	29,242	11.50	96	4.57
伝染性紅斑	157,453	61.92	895	42.62
突発性発しん	35,044	13.78	160	7.62
ヘルパンギーナ	49,649	19.52	99	4.71
流行性耳下腺炎	6,431	2.53	34	1.62
インフルエンザ	1,854,118	450.14	13,231	367.53
COVID－19	776,075	188.41	7,787	216.31
急性呼吸器感染症*	8,950,287	2,332.63	54,388	1,553.94
急性出血性結膜炎	1,029	1.48	1	0.11
流行性角結膜炎	30,054	43.37	576	64.00
性器クラミジア感染症	28,492	29.07	233	25.89
性器ヘルペスウイルス感染症	10,625	10.84	116	12.89
尖圭コンジローマ	6,262	6.39	20	2.22
淋菌感染症	8,201	8.37	37	4.11
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	1,805	3.76	7	0.70
クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	147	0.31	5	0.50
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因として同定された場合を除く。)	437	0.91	8	0.80
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	539	1.12	12	1.20
マイコプラズマ肺炎	19,701	41.04	112	11.20
無菌性髄膜炎	992	2.07	7	0.70
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15,619	32.54	165	16.50
薬剤耐性緑膿菌感染症	92	0.19	－	－

*2025年4月7日からの数値

(2026年3月集計)

5 前年（2024年）との定点当たり報告数の比較

感染症	全 国			山梨県			山梨県/全国	
	2024年 (A)	2025年 (B)	(B)/(A)	2024年 (C)	2025 (D)	(D)/(C)	2024年 (C)/(A)	2025年 (D)/(B)
RSウイルス感染症	39.22	43.53	1.11	21.25	15.52	0.73	0.54	0.36
咽頭結膜熱	31.76	18.52	0.58	21.54	10.86	0.50	0.68	0.59
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	158.39	111.90	0.71	90.33	37.10	0.41	0.57	0.33
感染性胃腸炎	209.97	306.95	1.46	154.50	275.00	1.78	0.74	0.90
水痘	9.05	16.45	1.82	5.54	5.19	0.94	0.61	0.32
手足口病	211.85	11.50	0.05	177.75	4.57	0.03	0.84	0.40
伝染性紅斑	10.28	61.92	6.02	4.21	42.62	10.12	0.41	0.69
突発性発しん	13.18	13.78	1.05	11.71	7.62	0.65	0.89	0.55
ヘルパンギーナ	23.88	19.52	0.82	15.17	4.71	0.31	0.64	0.24
流行性耳下腺炎	2.05	2.53	1.23	1.88	1.62	0.86	0.92	0.64
インフルエンザ	387.71	450.14	1.16	347.56	367.53	1.06	0.90	0.82
COVID-19	323.18	188.41	0.58	380.98	216.31	0.57	1.18	1.15
急性呼吸器感染症*	2,332.63			1,553.94			0.67	
急性出血性結膜炎	1.04	1.48	1.42	8.56	0.11	0.01	8.23	0.07
流行性角結膜炎	29.25	43.37	1.48	64.67	64.00	0.99	2.21	1.48
性器クラミジア感染症	30.38	29.07	0.96	20.89	25.89	1.24	0.69	0.89
性器ヘルペスウイルス 感染症	10.20	10.84	1.06	10.00	12.89	1.29	0.98	1.19
尖圭コンジローマ	6.51	6.39	0.98	1.89	2.22	1.17	0.29	0.35
淋菌感染症	8.96	8.37	0.93	4.44	4.11	0.93	0.50	0.49
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0.70	3.76	5.37	0.10	0.70	7.00	0.14	0.19
クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	0.15	0.31	2.07	－	0.50	－	－	1.61
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球 菌を原因として同定された場合を除く。)	1.09	0.91	0.83	0.70	0.80	1.14	0.64	0.88
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.91	1.12	0.59	1.20	1.20	1.00	0.63	1.07
マイコプラズマ肺炎	46.57	41.04	0.88	19.80	11.20	0.57	0.43	0.27
無菌性髄膜炎	1.63	2.07	1.27	1.20	0.70	0.58	0.74	0.34
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32.80	32.54	0.99	16.90	16.50	0.98	0.52	0.51
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.15	0.19	1.27	0.20	－	－	1.33	－

*2025年4月7日からの数値

(2026年3月集計)

6 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移 (2021年～2025年)

感染症	全国					山梨県				
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
RSウイルス感染症	71.98	38.35	46.35	39.22	43.53	32.50	26.26	27.92	21.25	15.52
咽頭結膜熱	10.81	8.05	56.73	31.76	18.52	2.13	1.09	18.92	21.54	10.86
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29.84	16.84	84.77	158.39	111.90	12.04	1.70	15.71	90.33	37.10
感染性胃腸炎	161.67	195.34	243.89	209.97	306.95	124.17	156.17	256.58	154.50	275.00
水痘	5.64	3.99	5.18	9.05	16.45	3.00	2.78	2.58	5.54	5.19
手足口病	24.47	50.61	31.88	211.85	11.50	2.92	36.96	14.00	177.75	4.57
伝染性紅斑	0.70	0.60	0.71	10.28	61.92	0.88	0.39	0.29	4.21	42.62
突発性発しん	19.08	14.98	13.00	13.18	13.78	10.92	10.52	14.00	11.71	7.62
ヘルパンギーナ	11.87	12.12	62.02	23.88	19.52	3.17	13.48	42.46	15.17	4.71
流行性耳下腺炎	2.32	1.57	2.19	2.05	2.53	2.08	0.78	1.75	1.88	1.62
インフルエンザ	0.22	5.20	468.63	387.71	450.14	0.02	4.55	380.39	347.56	367.53
COVID-19*			278.14	323.18	188.41			325.71	380.98	216.31
急性呼吸器感染症**					2,332.63					1,553.94
急性出血性結膜炎	0.20	0.27	0.61	1.04	1.48	0.11	－	0.11	8.56	0.11
流行性角結膜炎	9.85	9.37	26.19	29.25	43.37	6.33	6.11	19.44	64.67	64.00
性器クラミジア感染症	30.52	30.66	31.78	30.38	29.07	24.11	21.67	18.22	20.89	25.89
性器ヘルペスウイルス感染症	9.14	8.86	9.62	10.20	10.84	9.89	8.89	12.67	10.00	12.89
尖圭コンジローマ	5.70	6.08	6.73	6.51	6.39	2.00	2.56	2.11	1.89	2.22
淋菌感染症	10.58	10.17	9.83	8.96	8.37	4.56	7.33	3.89	4.44	4.11
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0.19	0.21	0.32	0.70	3.76	0.10	0.10	0.30	0.10	0.70
クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	0.05	0.07	0.05	0.15	0.31	－	－	－	－	0.50
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)	0.77	0.63	0.85	1.09	0.91	0.20	0.30	0.80	0.70	0.80
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.77	1.45	2.11	1.91	1.12	0.20	0.80	0.50	1.20	1.20
マイコプラズマ肺炎	1.42	0.82	2.24	46.57	41.04	0.40	0.40	0.20	19.80	11.20
無菌性髄膜炎	0.96	0.90	1.48	1.63	2.07	0.60	0.60	0.30	1.20	0.70
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	30.30	30.74	32.34	32.80	32.54	18.60	15.20	16.10	16.90	16.50
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.25	0.24	0.20	0.15	0.19	0.40	－	－	0.20	－

*2023年5月8日からの数値 **2025年4月7日からの数値

(2026年3月集計)

7 警報・注意報レベル発令週

感染症		保健所				
		中北	峡東	峡南	富士・東部	甲府市
インフルエンザ	(警報)	1～4	1～3	1, 2	1～3	1, 2
		47～52	47～52		47～52	49～52
	(注意報)	46	44～46	49, 50, 52	46	46～48
感染性胃腸炎	(警報)	－	－	－	9～11	－
水痘	(注意報)	－	－	25	－	－
伝染性紅斑	(警報)	27～29	23～25	－	21～38	3～5
			36～40			21～35
			50, 51			
流行性角結膜炎	(警報)	1※～3	－	－	－	－
		6～9				

※第1週は県独自判断による警報発令

8 感染症発生動向調査の調査報告週対応表

2025年

週	調査週間	週	調査週間	週	調査週間
1	12/30 ～ 1/5	19	5/5 ～ 5/11	37	9/8 ～ 9/14
2	1/6 ～ 1/12	20	5/12 ～ 5/18	38	9/15 ～ 9/21
3	1/13 ～ 1/19	21	5/19 ～ 5/25	39	9/22 ～ 9/28
4	1/20 ～ 1/26	22	5/26 ～ 6/1	40	9/29 ～ 10/5
5	1/27 ～ 2/2	23	6/2 ～ 6/8	41	10/6 ～ 10/12
6	2/3 ～ 2/9	24	6/9 ～ 6/15	42	10/13 ～ 10/19
7	2/10 ～ 2/16	25	6/16 ～ 6/22	43	10/20 ～ 10/26
8	2/17 ～ 2/23	26	6/23 ～ 6/29	44	10/27 ～ 11/2
9	2/24 ～ 3/2	27	6/30 ～ 7/6	45	11/3 ～ 11/9
10	3/3 ～ 3/9	28	7/7 ～ 7/13	46	11/10 ～ 11/16
11	3/10 ～ 3/16	29	7/14 ～ 7/20	47	11/17 ～ 11/23
12	3/17 ～ 3/23	30	7/21 ～ 7/27	48	11/24 ～ 11/30
13	3/24 ～ 3/30	31	7/28 ～ 8/3	49	12/1 ～ 12/7
14	3/31 ～ 4/6	32	8/4 ～ 8/10	50	12/8 ～ 12/14
15	4/7 ～ 4/13	33	8/11 ～ 8/17	51	12/15 ～ 12/21
16	4/14 ～ 4/20	34	8/18 ～ 8/24	52	12/22 ～ 12/28
17	4/21 ～ 4/27	35	8/25 ～ 8/31		
18	4/28 ～ 5/4	36	9/1 ～ 9/7		

感染症発生動向調査事業報告書

—令和 7（2025）年版—

令和 8 年 10 月 発行

編集・発行 山梨県感染症情報センター
(山梨県感染症対策センター)

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内 1-6-1

電話 055-223-1321

https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html

